

研究主題

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」
—身近な地域素材を活用した教材開発を通して—



目 次

● はじめに	校長 清水 雅也	2
I 研究の概要		3
1 研究主題について		
2 研究構想図		
3 研究の経過		
II 授業実践		
・低学年分科会		6
第2学年 生活科「わたしたちの町の すてきはっけん！」		
・高学年分科会		23
第6学年 総合的な学習の時間「キラキラ橘探偵団」		
・たんぼぼ分科会		40
第4・5・6学年 総合的な学習の時間「学校の周りの危険からみんなを守れ！」		
III 研究のまとめ		57
● おわりに	副校長 宮川 範子	59

地域「と」学ぶ 互いに学ぶ

校長 清水 雅也

去る11月15日(土)、京島地区まちづくり協議会主催の「京島文化まつり」が開催された。地域で活動する皆さんの作品展(書道、絵画、写真、研究成果など)や各種おたのしみイベントなど、京島地区の地域力が結集された行事であった。作品展には、本校児童の「地域学習に関する学習成果物」も展示された。開会式のあいさつでも、私から学習の様子を紹介するとともに、地域の方々へ感謝の気持ちをお伝えした。紹介した2種の成果物だが…、

①2年生:「わたしたちの町のすてきはっけん」

生活科の町探検でみつけた学校の周りにある「すてき・ふしぎな場所やもの」について調べ、絵地図・ポスター・ペープサートなどで学習成果を表現する活動。インタビューやミニ体験、写真撮影など、様々な方法で魅力を発掘し、グループでまとめた作品を展示した。

②5年生:「キラキラ橘探偵団」

キラキラ橘商店街の実態調査活動を通して、商店街のさらなる発展方法を考え提案する、未来指向型の学習。大学で講座をもつ商店街事務局長・大和さんのレクチャー(現状と課題)をきっかけに、実地調査(インタビュー、アンケート)で情報を収集、最後に「提案書」にまとめ、事務局長さんに提言する学習活動である。「観光、環境美化、人とのつながり、食への特化」等々、子供たちのユニークな発想が爆発した提案書がたくさんできあがった。

この3年ほど、地域をフィールドとした学習を強化してきたことにより、「地域の反応・対応」が変わってきたように感じている。地域の皆さんが、以前にも増して子供たちの受け入れに積極的・能動的になったのだ。忙しい中、時間を割いて来校してくださる、案内してくださる方々。それも下準備を万全に整えて対応してくださるのだ。子供たちは当然「学ばせていただく」のだが、地域の方々も「学んでくださる」のだ。これぞ私が理想としてきた「地域と学ぶ＝互いにウィンウィンの関係で学び合う」姿なのだ。

さて、本校は来年度「研究協力校」2年目を迎え、研究成果の集大成を行う年となる。私は、本研究をさらに深めていくためには、以下に示す4点の強化が必要であると考え。

- ①人から聞く・自ら体験する、情報収集活動と体験活動を効果的・有機的に組み合わせる。
- ②互いの考えを「高め合う」話し合い活動を工夫・展開する。
- ③学習過程を可視化(展示・掲示など)し、学習活動を意図的・計画的に展開する。
- ④学習成果の表現・発表方法の多様化に対応する。

来年度の本校スタッフには、校長が残す大きな宿題となってしまうが、この4点の強化・改善が少しでも研究活動の充実に繋がってくれば幸いである。

巻頭言の結びに、本研究の推進にあたってご指導を賜りました、「国士舘大学 体育学部こどもスポーツ教育学科 教授 秋田博昭先生」に衷心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

I 研究の概要

主体的・対話的に学ぶ児童の育成

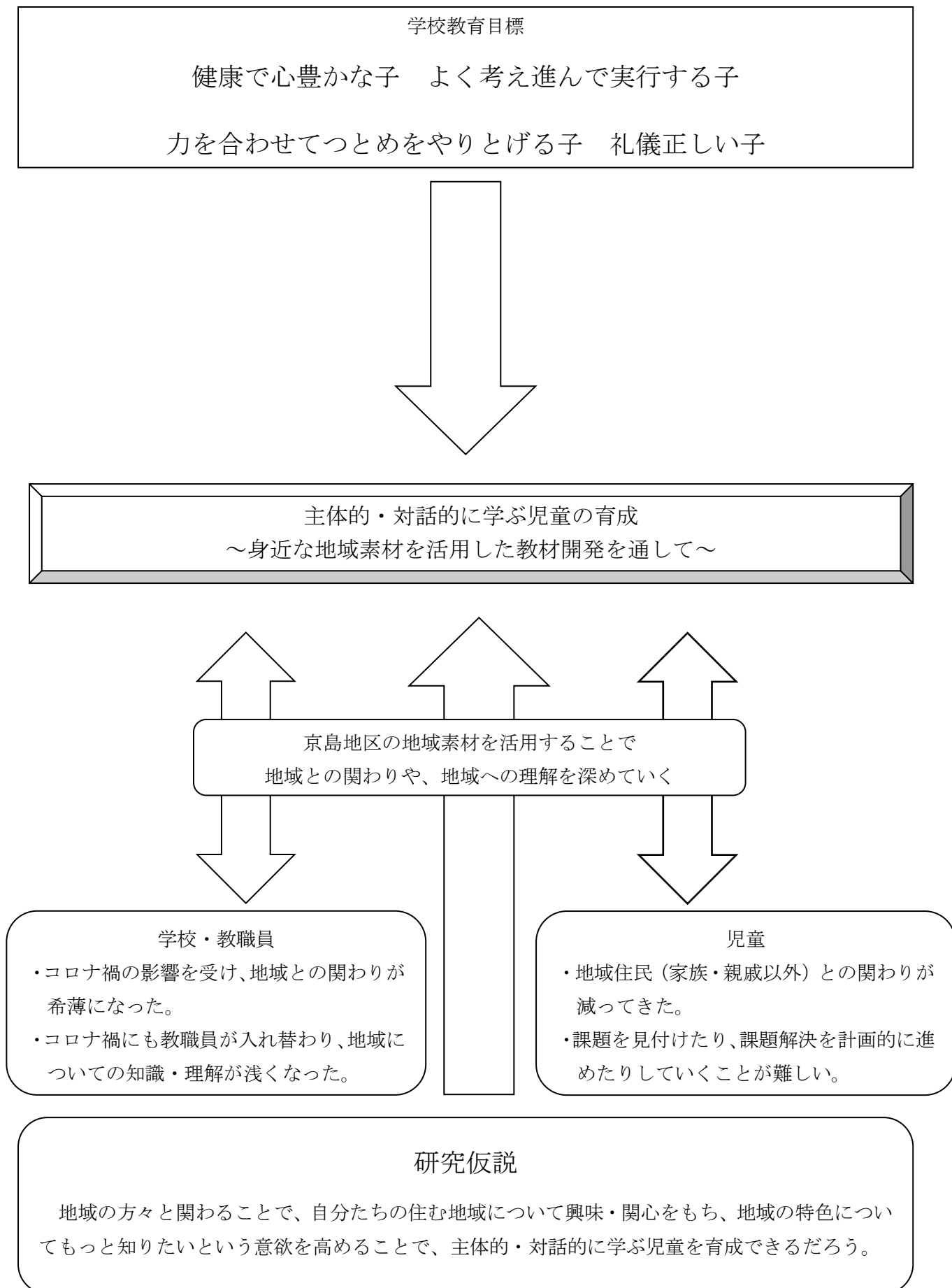
～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～

1 研究主題について

昨年度から、校内研究のテーマを「主体的・対話的に学ぶ児童の育成～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～」として取り組んでいる。昨年度の成果として、「教科を絞らなかったことで各学級の実態に応じて地域素材を選択できて良かった。」ことや、「児童だけでなく、教材開発を通して教師自身も地域を知ることができたり、地域との距離を縮めたりすることができた。」といったことが挙げられた。一方で、「地域素材を活用することが目的となってしまった。」ことや、「許可をとったり、日程を調整したりするのが大変だった。」ことが課題として挙げられた。昨年度の研究を通して得た地域とのつながりを基に、各学年での地域教材の活用方法を確立するため、本主題を設定した。

本校のある京島地区は、昔ながらの街並みが今日まで残されている。地域は児童にとって生活の場であることから、学習課題を見付けやすいと考えた。学区域には、児童の居場所、勉強の場、集いの場としての色合いもある商店街や相撲の押尾川部屋（2022 年～）、大学（千葉大学・I U 大学）がある。しかし、ここ数年はコロナ禍により地域を散策したり、地域の人々と関わったりする機会を設けることがほとんどできなかった。近年、少しずつ地域との交流が再開されたことで、地域と関わり、理解を深めることに力を注ぎ「地域に愛着をもつ児童」を育成したいと考えた。この研究を通して、児童には自分の住んでいる地域に「こんな素敵な人たちが住んでいる」、「こんな素敵な場所がある」といった気付きを与えて、主体的・対話的に課題や解決策を見付けたり、伝え合ったりする力を育成していきたいと考えた。

2 研究構想図



3 研究経過

月 日	研究会等	内容
4月 2日	研究推進部会	校内研究計画（年間計画・活動内容）について、役割分担
4月 4日	研究全体会	校内研究について
4月 23日	研究推進部会	研究全体会に向けて
4月 30日	研究全体会	特別講話 国士舘大学 教授 秋田 博昭先生
6月 4日	研究推進部会	校内研究の進め方について
6月 25日	研究推進部会	校内研究の進め方について
9月 3日	研究推進部会	低学年分科会 校内研究に向けて
9月 5日	研究推進部会	指導案検討（低学年分科会）
9月 22日	研究全体会	低学年分科会研究授業 第2学年 生活科 「わたしたちの町の すてきはっけん！」 講師 国士舘大学 教授 秋田 博昭 先生
10月 1日	研究推進部会	高学年分科会 校内研究に向けて
10月 7日	研究推進部会	指導案検討（高学年分科会）
11月 4日	研究全体会	高学年分科会研究授業 第5学年 総合的な学習の時間 「キラキラ橘探偵団」 講師 国士舘大学 教授 秋田 博昭 先生
11月 12日	研究推進部会	研究紀要作成に向けて、1年次研究のまとめ
11月 18日	研究推進部会	指導案検討（たんぼぼ分科会）
12月 3日	研究推進部会	たんぼぼ分科会 校内研究に向けて
12月 12日	研究全体会	たんぼぼ分科会研究授業 たんぼぼ4、5組 総合的な学習の時間 「学校の周りの危険からみんなを守れ！」 講師 国士舘大学 教授 秋田 博昭 先生
1月 8日	研究推進部会	研究紀要作成、1年次研究のまとめ、次年度に向けて
1月 26日	研究全体会	1年次の研究のまとめ、次年度に向けて
2月 9日	研究推進部会	1年次研究のまとめ、次年度に向けて
2月 26日	研究全体会	次年度に向けて
3月 3日	研究推進部会	次年度に向けて

※毎月2回程度、研究分科会（分科会ごとに授業検討、指導案作成）を実施。

II 授業実践

低学年分科会

第2学年

『わたしたちの町の すてきはっけん！』

4 研究主題の捉え方

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」
—身近な地域素材を活用した教材開発を通して—

〈分科会の捉え方〉

これからの時代を生きる子供たちに必要とされるのは、どんな難しい課題に直面しても、自らの目標を立て、周りの人と関わり合い、必要な情報を収集、活用しながら、思考し判断し解決していく力であると考え。その力を学校教育で育成していくため、教室の学習だけでなく、生活科、国語科など複数の教科と連携させ、校外での学習や体験を取り入れて行っていく。低学年では、実際に地域の施設や人々と関わりながら学習し、身近な地域への関心を高めることで、主体的・対話的に学ぶ児童が育成されることが考えた。

〈地域について〉

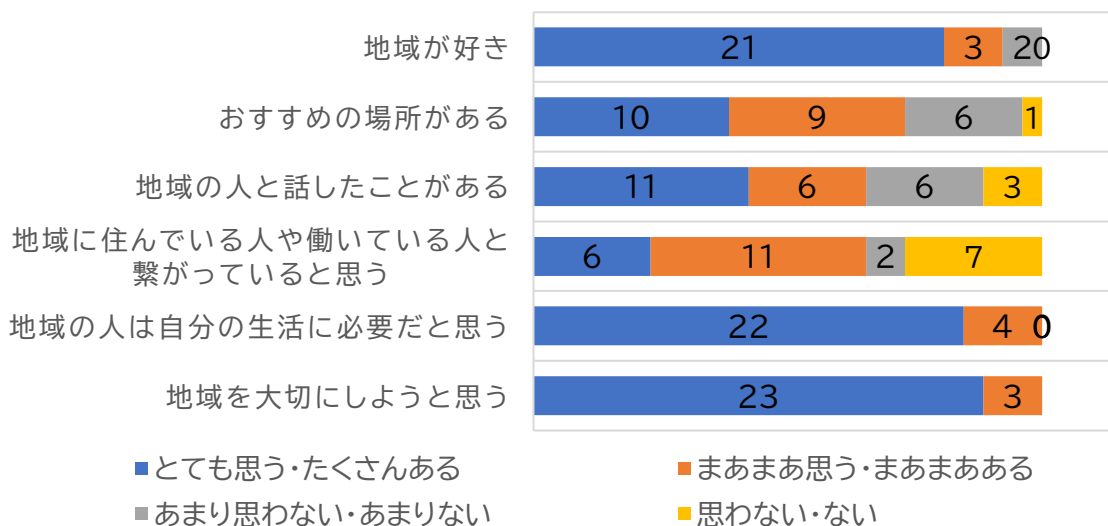
京島周辺地区は、関東大震災や東京大空襲による焼失を免れたため、昔ながらの街並みが今日まで残されている。学区域を見てみると、安全を支えてくれている向島警察署、子供たちの居場所、勉強の場、集いの場としての色合いもあるキラキラ橋商店街、2022年に独立した押尾川部屋、地域に進出してきたIU情報経営イノベーション専門職大学、千葉大学サテライトキャンパス、学区域外ではあるが、ひきふね図書館もある。

5 児童の実態について

地域に関しては、自宅が学校周辺にある児童が多く、キラキラ橋商店街でよく行くお店や、よく遊ぶ公園など身近な場所に興味、関心や予備知識をもっている児童が多い。

～アンケート結果より～

2年1組 地域についてのアンケート5月(26人)



「自分が住んでいる地域が好き」「自分が生活していくために地域の人は必要だと思う」、「自分の地域を大切にしようと思う」の項目では、「とても思う」の回答が全体の8割以上となり、子供たちなりに、地域のよさを感じたり意識したりしている様子が伺える。また、「おすすめの場所がある」「地域の人と話したことがある」「地域に住んでいる人や働いている人と繋がっていると思う」の項目では、全体の7割近くが「たくさんある」「まあまあある」と回答しているものの、3割近くの児童が「あまりない」「ない」と回答している。慣れ親しんだ生活の場でもある地域について、よさや楽しさを漠然とは感じているものの、実際の生活圏内や行動範囲は限られているために、知っている場所や施設、ものや人との関わりについては経験が少なく未知の部分が多いと思われる。

〈目指す児童像〉

知る楽しさや学ぶ楽しさを感じ、自分の思いや考えをすすんで伝え合おうとする児童

〈研究仮説〉

実生活の場でもある身近な地域素材を活用することで、児童は自分自身を取り巻く場所や施設、人に着目しながら主体的・対話的に学ぶことができ、気付いたことや自分の考えを伝え合うことができるであろう。

〈仮説の説明〉

低学年分科会は、先ず「地域を知る」ことを第一に教材開発に努めた。身近な地域の施設や場所、そこに住んだり働いたりしている人々が、自分たちの生活に深く関わっていることに気づき、自分の町や地域により親しみや愛着をもつことによって、自分の気持ちや考えを伝え合おうとする主体的・対話的な児童が育成されると考えた。

6 研究主題に迫るための手立て

① 児童が自分の思いや考えをもつための手立て

学区域地図・町探検のコース別の記録写真の掲示

単元の導入時より、おすすめの場所や人についての気づきや思いを書いた付箋を学区域地図に貼って交流したり、計6回の町探検のコース別の記録写真を掲示して活動をふり返りやすくしたりすることで、興味や関心を高め、意欲を持続できるようにする。(主体的な学び)

② 単元の目的意識の明確化

「1年生に町のすてきを伝えよう」というめあてを設定

単元の終末に「1年生に町のすてきを伝える発表会」の時間を設定し、目的意識を明確にする。より1年生に分かりやすく伝える内容や方法をグループごとに考えて話し合うことで必然性が生まれてくる。(対話的な学び)

③ 調べたことを伝えるための表現方法の提示

表現方法の具体物の提示

「豆腐や」の例示物で、調べた町のすてきについての表現方法を具体的に提示し、活動のイメージを捉えやすくする。(新聞・ポスター・ペープサート・クイズ)

7 実践授業

第2学年 生活科学学習指導案

日 時 令和7年9月22日(月)

対 象 第2学年1組 26名

単元名 「わたしたちの町の すてきはっけん！～しらべたことをつたえよう～」

単元の目標

地域の様々な場所を訪ねたり、利用したりする活動を通して、地域の場所や人を自分との関わりで考え、地域には様々な場所があることや、人がいることに気付くとともに、地域の場所や人に親しみを持ち、適切に接したり、安全に気を付けて生活しようとしたりすることができる。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の町を探検し、調べる活動を通して町の特徴やよさ、そこで暮らしたり働いたりする人々の様子や季節による自然の変化などに気付いている。	町探検に行く活動を通して、発見したことや体験したこと、インタビューしたことなどを絵や文、簡単な地図等にまとめて、まわりの人に伝えている。	自分たちが住む町やそこで働いている人たちについて、友達と協力して調べたり、わかったことをまとめて発表したりする活動を通して、そこで暮らす人々との関わり、自分たちの町に対して親しみや愛着をもとうとしている。

単元について

(1) 関連する内容

本単元は生活科の内容(3)(8)との関連を重視して行う。

内容(3)

地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

内容(8)

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、すすんで触れ合い交流しようとする。

単元の指導計画と評価計画（32時間扱い）

時間	目標	活動	評価＜関連する観点＞
1	自分たちが住んでいる町の様々な場所について話し合うことを通して、様々な場所があることに気づき、町探検に行きたいという思いを高める。	○地域の写真や地図を見て、地域の場所に興味関心をもつ。 じぶんの知っているばしょやお気に入りのばしょをつたえ合おう！ ○地域で自分のお気に入りの場所や気になっている場所などについて話し合う。 ○実際に行ってみたいという意欲を高める。	○地域には、様々な場所があることに気付いている。＜知技＞
2	地域の様々な場所に対する思いなど、自分との関わりを基に、安全に気を付けて町探検に行くことができるように見通しをもつ。	見つけたいものや知りたいことを考えよう！ ○町探検で見つけたいものや知りたいことを考える。 ○みんなで安全に探検に行くための約束や持ち物を考える。 ○地図や写真を基に、安全に行くために気を付けることを話し合う。	○町探検で見つけたいものを考えたり、安全に行くことができるように気を付けることを考えたりしている。 ＜思判表＞＜技能＞
3	町探検に出かけ、場所や物について新たに発見したり、思いや願いをもったりする。また、人と適切に接したり、安全に行動したりしている。	町たんけんに行こう！ ○町探検①【キラキラ商店街→井戸端広場→マンモス公園→原公園コース】 ○見つけた場所やものをタブレットで写真に撮る。	○地域には、様々な場所や人、ものがあることに気づき、自分との関わりで捉えている。また、適切かつ安全に行動している。＜知技＞ ＜思判表＞＜態度＞
4			
5	探検して見つけたことを発見カードに書き、伝え合い、お店や施設、公園の場所やなど、地域には様々な場所があることに気づき、もっと知りたいという気持ちをもつ。	見つけたことや思ったことをつたえ合おう！ ○タブレットに記録した写真を基に、思い出し、発見カードにまとめて、交流する。 ○見つけたこと、思ったこと、もっと見つけたいことなどを伝え合う。 ○もっと見つけたいという思いや願いから次の活動の見通しをもつ。	○町探検をして見つけたことを交流し、お店や施設の位置や地域の様々な場所を知り、もっと知りたいという気持ちをもっている。 ＜知技＞＜態度＞

4/25（金）

6 7 8	地域の様々な場所に対する思いなど、自分との関わりを基に、安全に気を付けて町探検に行くことができるように見通しをもつ。	もっと見つけたい！2回目の町たんけんへ ○町探検で見つけたいものや知りた いことを考える。 ○みんなで安全に探検に行くための 約束や持ち物を考える。 ○地図や写真を基に、安全に行くた めに気を付けることを話し合う。 ○町探検で見つけたいも のを考えたり、安全に 行くことができるよう に気を付けることを考 えたりしている。 <思判表><技能>	
	5/23（金）	2回目の町たんけんに出ばつしよう！ ○町探検②【百樹園→緑と花の学習 園→小村井駅→向島警察署コー ス】 ○見つけた場所やものをタブレット で写真に撮る。 ○地域には、様々な場所 や人、ものがあること に気付き、自分との関 わりで捉えている。ま た、適切かつ安全に行 動している。<知技> <思判表><態度>	
	探検して見つけたことを 発見カードに書き、伝え 合い、お店や施設、公園 の場所やなど、地域には 様々な場所があることに 気付き、もっと知りたい という気持ちをもつ。	見つけたよ！楽しかった町たんけん ○タブレットに記録した写真を基 に、思い出し、発見カードにまと めて、交流する。 ○見つけたこと、思ったこと、もっ と見つけたいことなどを伝え合 う。 ○もっと見つけたいという思いや願 いから次の活動の見通しをもつ。 ○町探検をして見つけた ことを交流し、お店や 施設の位置や地域の 様々な場所を知り、も っと知りたいという気 持ちをもっている。 <知技><態度>	
	地域には、自分と関わり がある様々な場所がある ことや、生活を安全なも のになるよう支えてくれ る人がいることに気付 き、地域の場所、人、も のに親しみをもつととも に、さらに地域との関わ りをもとうとする。	もっと知りたい、わたしたちの町！ ～「むこうじまけいさつしょ」をたんけんしよう！～ ○「向島警察署探検」で見つけたい ことや知りたいことを考える。 ○みんなで安全に探検に行くための 約束や持ち物を考える。 ○地図や写真を基に、安全に行くた めに気を付けることを話し合う。 ○向島警察署で見つけた いものや知りたいこと を考えている。 <思判表><態度>	

9 10	6/24 (火)	「むこうじまけいさつしょ」たんけんに出ばつ！	
	探検して見つけたことを発見カードに書き、伝え合い、地域には自分たちの生活を安全に支えてくれる人がいることに気付く。	○町探検③【向島警察署】 ○見たことや聞いたこと。気付いたことや思ったことを発見カードに記録する。	○地域にある警察署の施設やもの、そこで働いている人の仕事に気付き、自分との関わりで捉えている。また、適切かつ安全に行動している。＜知技＞ ＜思判表＞＜態度＞
11	地域には、自分と関わりがある様々な場所があることや、生活を安全なものになるよう支えてくれる人がいることに気付き、地域の場所、人、ものに親しみをもつとともに、さらに地域との関わりをもとうとする。	見つけよう！「むこうじまけいさつしょ」のすてきなところ ○発見カードを基に思い出し、交流する。 ○見つけたことや思ったことを伝え合う。 ○次の活動の見通しをもつ。	○警察署探検をして見つけたことや思ったことを交流し、地域には、自分たちの生活を安全なものになるよう支えてくれる施設があり、そこで働く人がいることに気付いている。 ＜知技＞＜思判表＞ ＜態度＞
12 13	地域には、自分と関わりがある様々な場所があることや、生活を便利で豊かなものになるよう支えてくれる場所や人がいることに気付く。	もっと知りたい、わたしたちの町！ ～「ひきふね図書かん」をたんけんしよう！～ ○「ひきふね図書館探検」で見つきたいことや知りたいことを考える。 ○みんなで安全に探検に行くための約束や持ち物を考える。 ○地図や写真を基に安全に行くために気を付けることを話し合う。	○ひきふね図書館で見つきたいものや知りたいことを考えている。 ＜思判表＞＜態度＞
	7/3(木)	「ひきふね図書かん」たんけんに出ばつ！	
	探検して見つけたことを発見カードに書き、伝え合い、地域には自分たちの生活を便利で豊かなものになるよう支えてくれる人がいることに気付く。	○町探検④【ひきふね図書館】 ○見たことや聞いたこと。気付いたことや思ったことを発見カードに記録する。	○地域にある図書館の施設やもの、そこで働いている人の仕事に気付き、自分との関わりで捉えている。＜態度＞

1 4	地域には、自分と関わりがある様々な場所があることや、生活を便利で豊かなものになるよう支えてくれる人がいることに気づき、地域の場所、人、ものに親しみをもつとともに、さらに地域との関わりをもとうとする。	見つけたよ！「ひきふね図書かん」のすてきなところ ○発見カードを基に思い出し、交流する。 ○見つけたことや思ったことを伝え合う。 ○次の活動の見通しをもつ。	○図書館探検をして見つけたことや思ったことを交流し、地域には、自分たちの生活を便利で豊かなものになるよう支えてくれる施設があり、そこで働く人がいることに気付いている。＜知技＞＜態度＞＜思判表＞
1 5 1 6	これまでの町探検を通して、地域のよさや特徴に気づき、さらに地域との関わりをもとうとする。	もっと知りたい！わたしたちの「町のすてき」 ○町探検でさらに調べたい場所について考える。（5グループ程度） ○みんなで安全に探検に行くための約束や時間、持ち物などを考える。 ○地図や写真を基に、安全に行くために気を付けることを話し合う。	○町探検で調べたい場所や聞いてみたいことなどについて考えている。 ＜思判表＞＜態度＞
1 7 1 8 1 9 2 0	7/14(月)～7/15(火) 地域には、自分と関わりがある様々な場所があることや、生活を安全に、便利で豊かなものになるように支えてくれる人がいることに気づき、地域の場所、人、ものに親しみをもつとともに、さらに地域との関わりをもとうとする。	もっと見つけよう！わたしたちの「町のすてき」 ○町探検でグループごとに、さらに調べたい場所に行き、インタビューをする。 ○見たことや聞いたこと。気付いたことや思ったことを発見カードに記録したり、タブレットで写真を撮ったりする。	○地域の店や施設を調べ、そこで働いている人の仕事に気づき、自分との関わりで捉えている。また、適切かつ安全に行動している。 ＜態度＞

2 1 2 2	9月～ 簡単な絵地図 を各グループ で作る。	「町のすてき」を絵地図でつたえよう！ ○発見カードや写真を基に思い出 し、簡単な絵地図にまとめる。	○地域には、自分たちの 生活を安全に、便利で 豊かなものになるよう に支えてくれるお店や 施設、そこで働く人が いることに気付いてい る。＜知技＞＜態度＞ ＜思判表＞
2 3 2 4	これまでの町探検を通し て、発見したことや思っ たことなどを分かりやす く表現する。 地域には、自分と関わり がある様々な場所がある ことや、生活を安全に、 便利で豊かなものになる ように支えてくれる人が いることに気付き、地域 の場所、人、ものに親し みをもつとともに、さら に地域との関わりをもと うとする。	1年生に「町のすてき」をつたえるじゅんぴをしよう！ ○町探検を通して、見つけたり「町 のすてき」を振り返り、伝えたい 相手や内容を考えて話し合う。（お 家の人、1年生、インタビューし た相手等・・・） どんなつたえ方があるか考えよう！ ○町探検やインタビューを通して発 見したことや聞いたことの中か ら、伝えたいことや伝える方法に ついて、グループごとに話し合っ て準備していく。 ○まとめ方の例や効果を示す：<u>絵地図 にプラスして</u> ポスター（新聞）ク イズ ペープサート 写真や動画の スライド使う等・・・<u>担任がインタビ ューした</u> <u>「豆腐や」の例示を見せ確認する。</u>	
2 5 2 6 2 7 2 8 2 9	本時	1年生につたえたい「町のすてき」や、わかりやすくつた える方ほうについて話し合ってじゅんぴしよう！ ○町探検で発見したことや聞いたこ との中から、伝えたい「町のすて き」の内容や、わかりやすく伝え る方法について話し合って準備し ていく。	○町探検で見つけた「町 のすてき」や分かりや すく伝える方法につい て話し合って準備して いる。 ＜知技＞＜態度＞ ＜思判表＞

	10月16日(木) 3～4校時		
30 31	「町のすてき」はっぴょう会を通し、地域には、自分と関わりがある様々な場所があることや、生活を安全に、便利で豊かなものになるように支えてくれる人がいることを実感し、地域の場所、人、ものにより親しみをもつとともに、さらに地域との関わりをもとうとする。	「町のすてき」はっぴょう会をしよう！ ○「町のすてき」が伝わるように、発表する人と聞く人に分かれて準備や練習をする。 ○お互いの発表を見てよい点や改善点を教え合う。 ○伝えたい内容がより分かりやすく伝わるように話し合う。 ○1年生や保護者・地域の方等を招待して、「町のすてき」発表会をする。	○町探検で見つけた「町のすてき」や楽しかったことを工夫して表現しようとしている。 ＜知技＞＜態度＞ ＜思判表＞
32		学しゅうのふりかえりをしよう！ ○町探検や発表会を振り返り、今後の活動を考える。	○町探検で見つけた「町のすてき」や楽しかったことを伝えるとともに、さらに今後、町でやってみたいことなどを考えている。 ＜思判表＞

本時の学習（26/32時間）

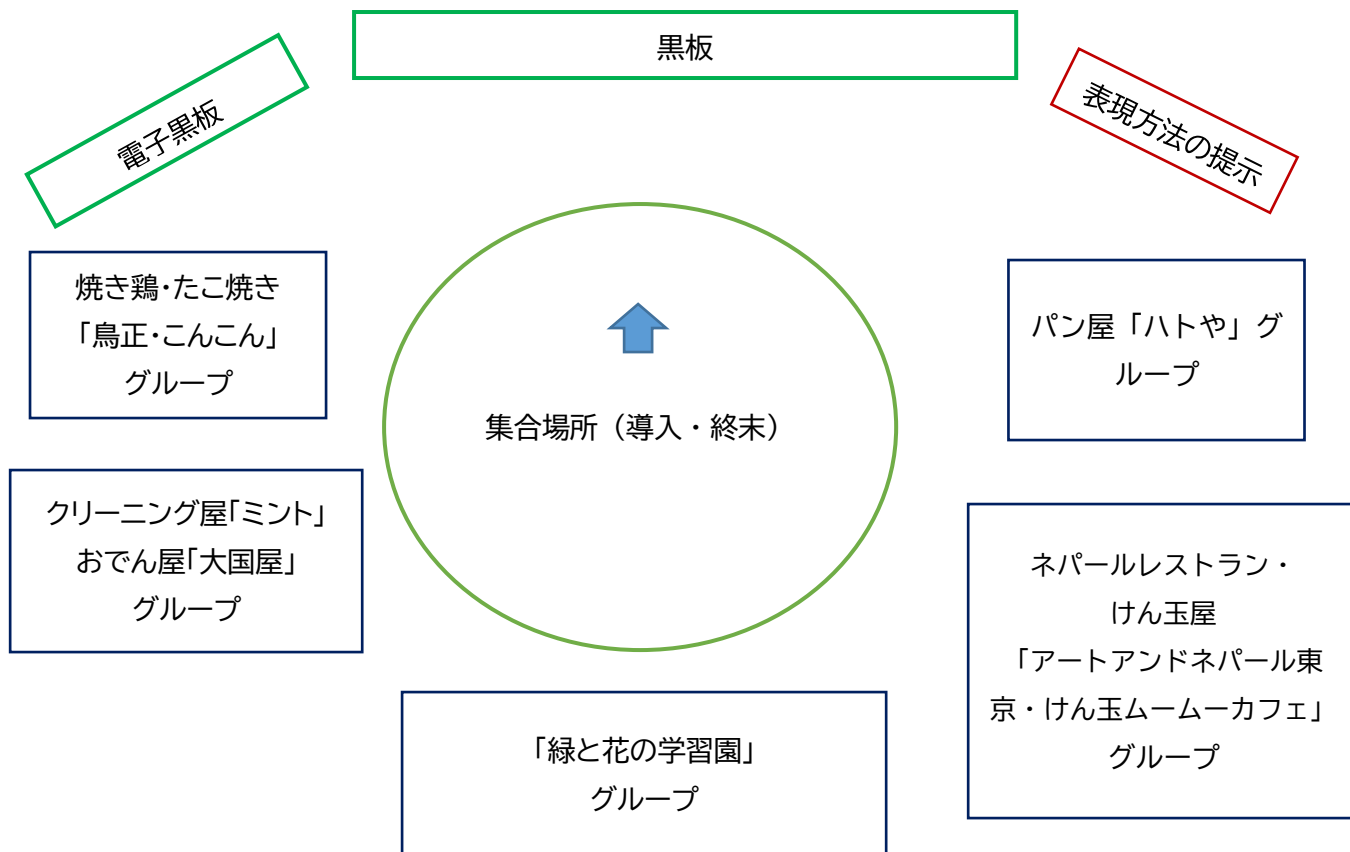
（1）目標

1年生に伝えたい「町のすてき」について考えて話し合う。＜思判表＞

（2）展開

	活動 C予想される姿	◇指導・支援 ☆評価
導入	1 全体で、各グループの町探検の様子や、前時までの学習について思い出す。 C パン「ハトや」グループ：人気のパンを紹介したいな。 C 緑と花の学習園グループ：中にある竹林がきれいだから教えたい・・・	◇探検の記録カードや、各グループで作った絵地図などを掲示し、想起しやすくする。
展開	1年生につたえたい「町のすてき」について話し合おう！ 2 話し合いのしかたを確かめる。 ① つたえたい「町のすてき」 ・自分が伝えたい「町のすてき」を話してから、ふせんを出してグループカードにはる。 ・グループでつたえる「町のすてき」について話し合っ てまとめる。同じ内容はまとめるなど、確かめる ② わかりやすく伝える方ほう ・新聞・ポスター→絵や写真があってくわしい。 ・クイズ→飽きないで楽しめる。 ・ペープサート→動きがあって、会話がわかりやすい。 3 各グループで、①1年生に伝えたい「町のすてき」と②「伝える方法」について話し合う。 4 全体で、各グループの話し合いについて発表する。 他のグループの内容に付け足しがある場合は発言する。	◇学習の進め方を提示する。 学しゅうのすすめ方 1 前の学しゅうを思い出そう 2 グループで話し合おう 3 ぜんたいでつたえ合おう 4 ふりかえろう ◇「豆腐や」の例示物で「伝える方法」について確認し、グループで伝えたい「町のすてき」の内容を決めた後に、分かりやすく「伝える方法」についても話し合うことを確認する。 ◇各グループの話し合った内容について、グループカードをテレビに映して共有していく。 ◇他のクループの伝えたい「町のすてき」について付け足しがある場合は発表させる。 (付け足しが多く出た場合はもう一度グループで確認させる。)
終末	5 本時のふりかえりをする。	☆町探検で見つけた「町のすてき」について1年生に伝える内容や、分かりやすく伝える方法を考えている。＜発言・態度＞

(2)学習形態と準備物



(3)板書

わたしたちの町のすてきはっけん！～しらべたことをつたえよう～

④ 1年生につたえたい「町のすてき」について話し合おう！

グループでつたえたい「町のすてき」と「つたえる方ほう」

けん玉・ネパールレストラン グループ つたえたい「町のすてき」 つたえる方ほう	鳥正・こんこん グループ つたえたい「町のすてき」 つたえる方ほう	大国や・ミント グループ つたえたい「町のすてき」 つたえる方ほう	ハトやグループ つたえたい「町のすてき」 つたえる方ほう	緑と花グループ つたえたい「町のすてき」 つたえる方ほう
--	--	--	------------------------------------	------------------------------------

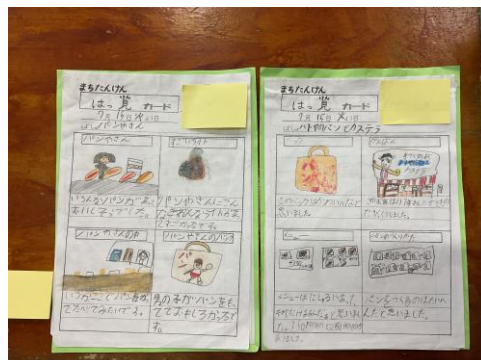
学しゅうのすすめ方

- 1 前の学しゅうを思い出そう
- 2 グループで話し合おう
- 3 ぜんたいでつたえ合おう
- 4 ふりかえろう

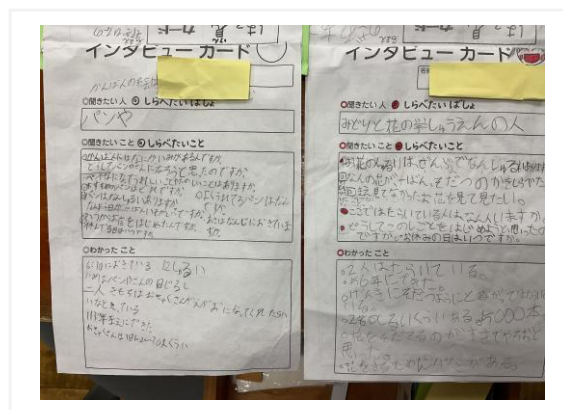
資料
地図



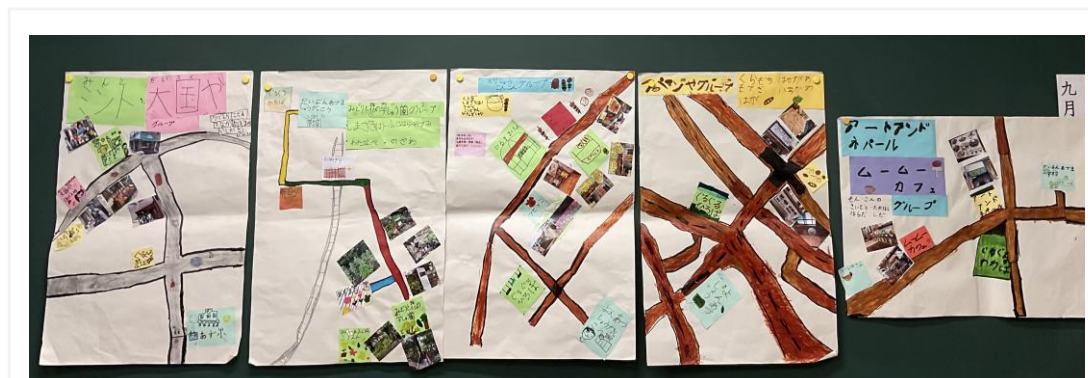
はっけんカード



インタビューカード



絵地図



8 協議会記録

(1) 協議会より

○掲示物・ワークシート・資料等の準備、活用

- ・掲示物によってこれまでの学習を振り返ることができた。
- ・掲示物やワークシートなど学習の足跡があり振り返りがしやすい。
- ・単元の積み重ねがされていて児童がこの学習で何をするか分かっていた。
- ・インタビューカードに書かれている情報の活かし方はどのようにするのか。

○話し合い活動

- ・発見カードが話し合いをスムーズに行うために有効であった。
- ・付箋で分類することで自分の意見を伝えやすく、話し合いがスムーズであった。

○質疑・応答

- ・1年生に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をされるのか。
(この中で1番伝えたいことは？などと絞るのか)
- ・今回の学習で新しい発見はあったか。
→インタビューの仕方を知る、自分の町の好きなところを言えるようになった。
- ・調べたい場所の選定方法は？
→学区域から3つの方面で分類(希望を取り先生がグループ決めをした。)

(2) 指導講評 国士舘大学体育学部 こどもスポーツ教育学科 秋田博昭先生

○研究主題について

- ・話し合い活動
→よく指導案に使用されるが、話し合いの目的設定とその達成状況の確認が大切である。
- ・授業の課題や改善策について全体で考えることが良い協議会となる。
- ・本校の研究の「ウリ」を考えることが大事。
- ・主体的→子供たちが見通しをもって学習に取り組み、振り返りをしながら学んでいるか。
- ・対話的→子供同士、地域の方と話しをする、インタビューをすることだけで対話的とは言わない。自己の考えを広げ、深めることが重要となる。
- ・地域素材の活用→地域の現状把握を行い、しっかりと分析することが大事である。

○分科会の考えについて

- ・アンケートの分析が分かりやすい。(地域は好きだけど知らない、経験値がない。)
- ・地域素材の活用が目的になっていないのが良い。
- ・学区域や探検記録写真の掲示などは良いが、研究仮説に対して効果的なものだとお良い。

○題材の流れ

- ・体験活動での気づきを言葉で表現していくように意識されている。
- ・32時間と長い指導計画だが、大きく4つのセクションに分かれている。その中で「探検→伝え合い活動」を繰り返していて、児童の興味関心を引き出すことと対話的な学びが織り込まれていたことが良い。
- ・伝え合い活動
→言葉による交流だけでなく、表情や仕草、態度など心の交流も伝えあうことに当てはまる。
(リアクション)

○本時の授業について

- ・調べたことの発表をゴールに設定しているのが良い。
- ・先生が意図する話し合いと児童が行った話し合いに齟齬が生まれていたような気がする。
→初めての話し合い活動のため、より細分化し1時間ごとに指導計画をたてて先生がアシストしても良かった。（どの店について伝えるか→どの素敵を伝えるか→どんな方法で伝えるか）
- ・話し合いの目的やめあてをより明確にすることで、話し合い活動に見通しがもてたのではないか。意見の分類や発表方法の検討はできていたが、それが目的であったのか。（分類すること自体は作業とも言えるので。）
- ・多くの花の種類や食べ物の名前が子供たちから出ていた。
→人についてももう少し出きても良かった。
- ・話し合う内容を絞っても良い、グループに5、6人、2つの店についての話し合いは難しい。（低学年は2人が良い。）

9 研究のまとめ

(1) 各手だての検証

i 手だてに沿った検証

①児童が自分の思いや考えをもつための手立て

○合計6回に及ぶ町探検を実施したが、学区域を方向別に行ったことで印象に残ったことや調べたいことなどが多様に出た。

○夏休みの課題にも町のすてき発見を出したところ、保護者の協力が厚く、全員それぞれのすてきをカードにまとめ、自主的にインタビューした児童も半数ほど見られた。

②単元の目的意識の明確化

○発見した町のすてきを1年生や保護者に伝えるというゴールを設定したことで目的意識が明確になり、意欲が持続した。

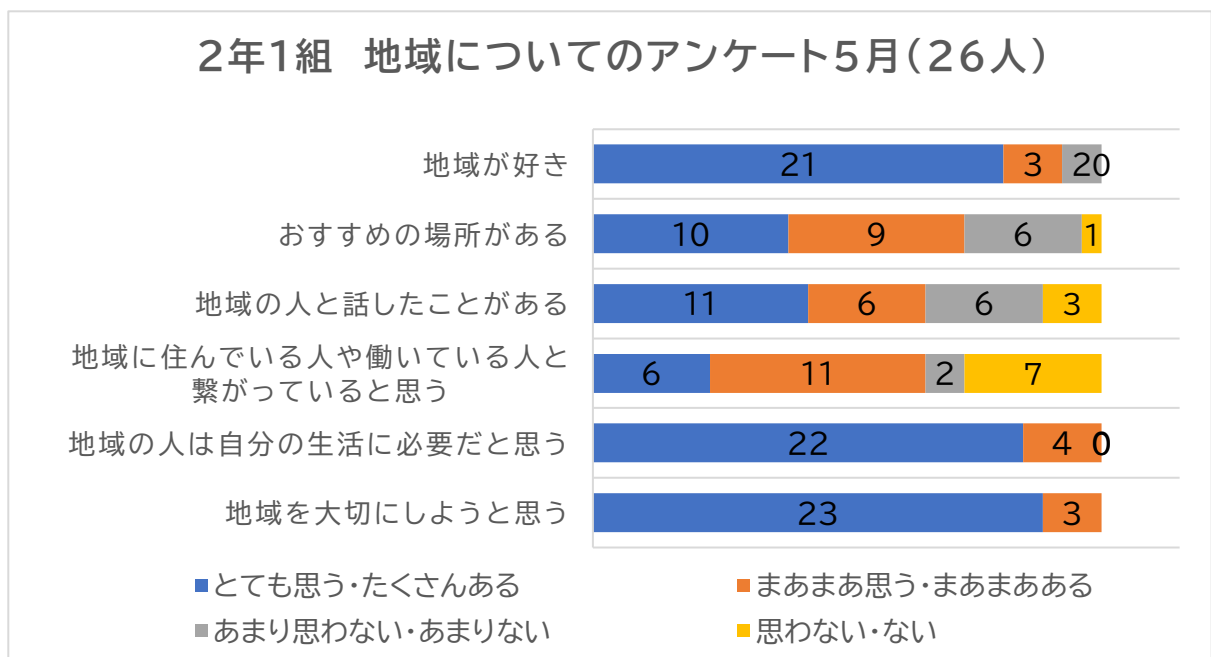
○土曜授業日に保護者へ向けて発表会をする機会があり、保護者の方々から質問やよい感想をたくさんもらうことができて励みになったし、保護者にとっても子供の学習活動や地域の様子が分かり好評であった。

③調べたことを伝えるための表現方法の提示

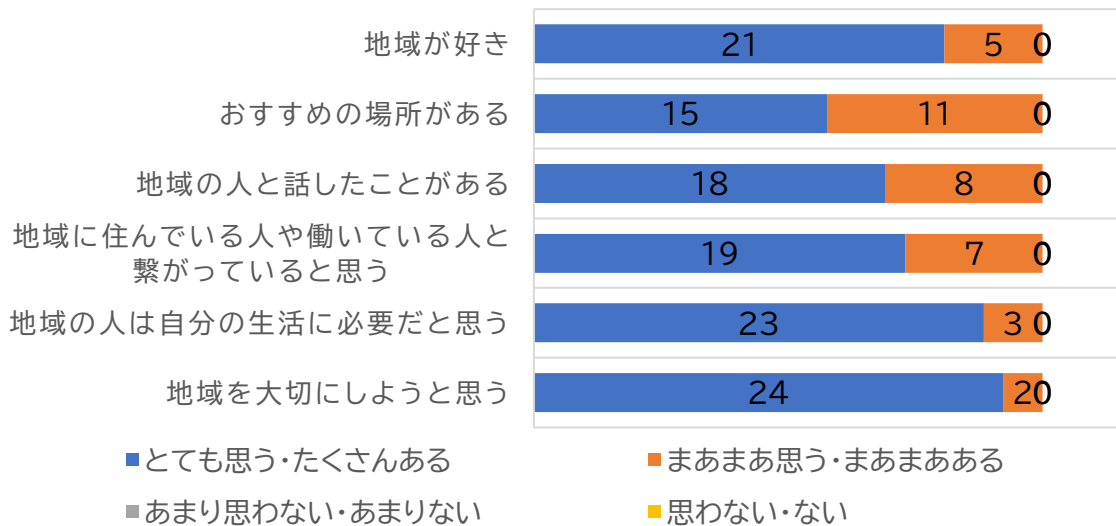
○調べたことを伝える方法として、新聞、クイズ、ペープサートの3種類の見本を提示したことで、それぞれのまとめかたの良さを感じ、活動を進めることができた。他教科にも活かせる方法を知ることができた。

○初めての絵地図作りでは、各グループに地図の一部分をロイロノートで送り、道路を厳選したことでスムーズに作成できた。

ii 事後アンケートより



2年1組 地域についてのアンケート10月(26人)



全ての項目において、とても思う・たくさんある、まあまあ思う・まあまああるの数値が伸びている。特に「地域の人と話したことがある」・「地域に住んでいる人や働いている人と繋がっていると思う」の項目では、町探検を通して商店街のお店の人や公共施設で働く人々にインタビューをした経験から、実際に会話をして繋がりを覚えることができた児童が大幅に増えたと思われる。慣れ親しんだ生活の間でもある地域について、さらによさや楽しさ、すてきな部分を見つけ、自分たちの知る町の範囲も広がり、そこで働く人々の姿にも触れることができた様子が伺える。

(2) 成果と課題 (成果○ 課題◆)

- 単元計画を早めに立てたことで見通しをもって活動に取り組ませることができた。
- ◆活動内容を精選し、単元計画を少し短くして適度な時間を設けるとよかった。
- ◆インタビューのアポ取りや、コース別の探検において、引率者の人手が必要であった。
保護者にもお知らせをして、協力してもらうために早めの周知が必要であると感じた。
- ◆今回は、調べたことを伝える方法を知ること重点をおいたが、作成した絵地図を活用して、その中に見つけたすてきを書き込んだり、カードを貼ったりする流れにすると全体の単元活動時間が短縮できた。
- ◆本時の「町のすてき」の話し合いの際、見つけた「もの」や「場所」について話し合うことで終わってしまいインタビューした内容について触れることができなかったため、その後の授業で話し合いをして、まとめに活かした。
- ◆1年生に発表する形態に時間がかかりすぎた。各コーナーで発表する出店方式にして4回も繰り返したことで発表する側も聞く側の1年生も後半は集中できなかった。低学年の実態を考え、時間を区切ったり、日にちを変えたりするなど適度な時間設定が必要であった。

高学年分科会

第 5 学年

『キラキラ橘探偵団』

4 研究主題の捉え方

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成
ー身近な地域素材を活用した教材開発を通してー」

〈分科会の捉え方〉

小学校学習指導要領総則総合編（平成29年告示）の目標には、「探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」とある。

今回、児童は、自分たちが住んでいる地域にある身近な商店街を題材に、歴史・自然・文化・食・防災など様々な視点から、未来の京島地区について考える。児童は、身近であり生まれたときから関わりの深い「キラキラ橋商店街」に愛着をもっている。その商店街に課題があることに気付くことで、問題を解決したいという意欲をもち、自分自身の生活と関係づけながら、主体的に問題解決に取り組むと考える。また、未来の京島地区を考える上で、自分たちの思いだけでなく、集めた情報（課題やそれぞれの立場における思い）をもとに、条件をできるだけ取り入れながら、どうしたらよりよい（住みよい）街を作っていけるのか、多面的に考えていく必要がある。そこで様々な立場の人の話を聞くことの大切さや、児童同士の話し合いを繰り返していくことが考えを深めたり広げたりすることにつながるという、対話のよさに気付くのではないかと考える。

以上のことから、「キラキラ橋商店街」という児童に身近な地域教材を活用することで、主体的・対話的に学ぶ児童が育成されると考えた。

〈地域について〉

「キラキラ橋商店街」は、墨田区の京島エリアに位置し、全長470メートル、幅員5メートルの地域密着型の商店街である。平成元年に、より地域の人に愛される商店街になるため愛称を募集し、数多くの応募の中から「下町人情キラキラ橋商店街」に決定した。ピーク時は137店舗が立地し、にぎわっていた。その後錦糸町や亀戸の副都心化に伴い停滞したが、下町人情に着目した地域密着型の商店街づくりを行うことによって活性化。現在は60程の商店が運営している。

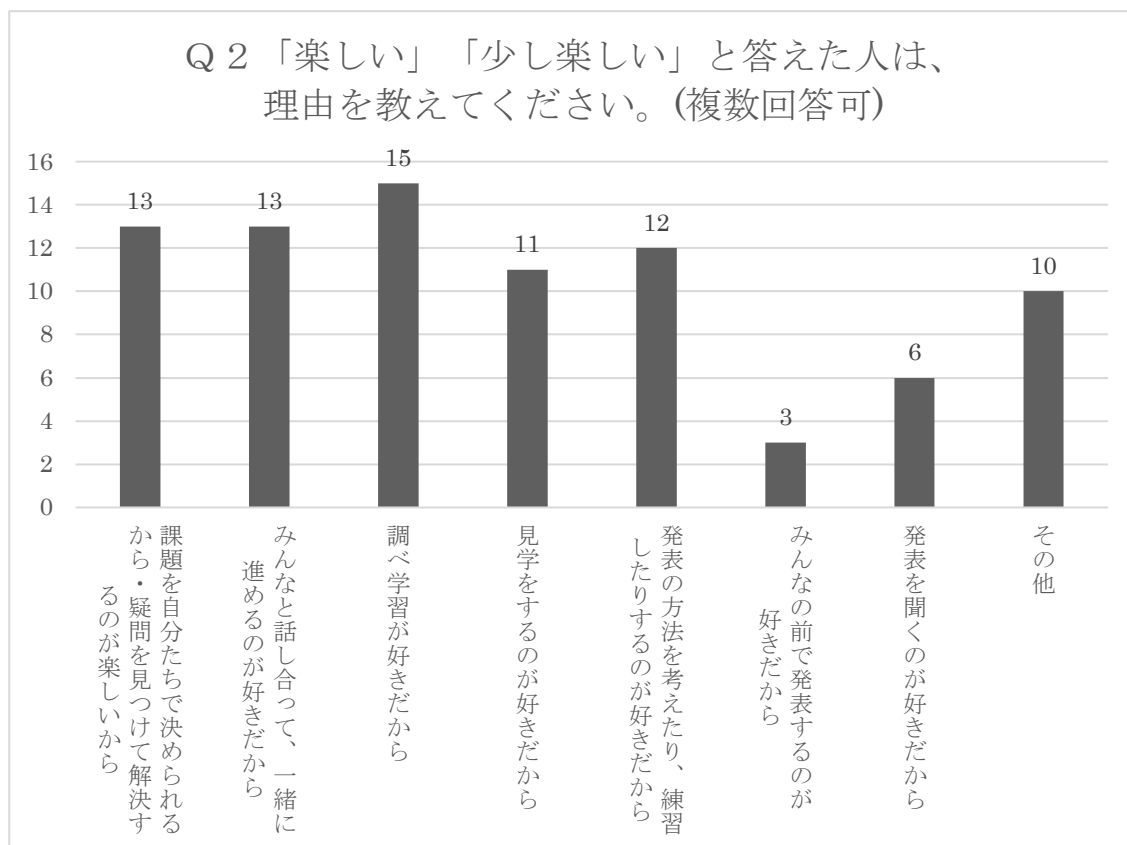
5 児童の実態について

アンケート対象 5年1組 26名 令和7年7月16日実施 アンケートの単位は人

Q1「総合的な学習の時間」

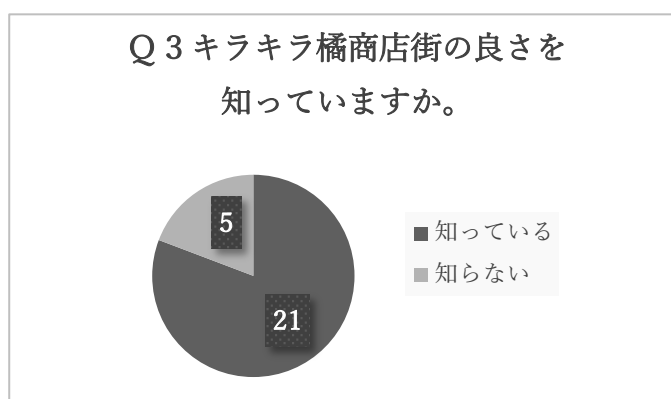
は、楽しいですか。



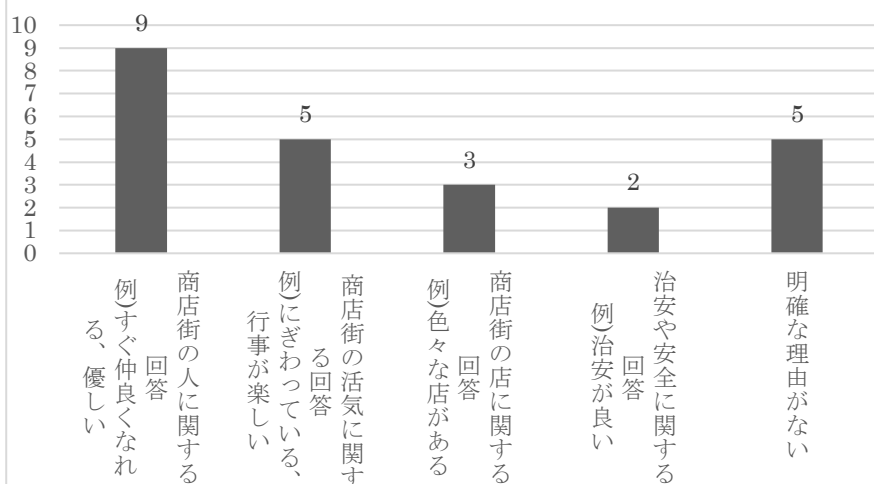


考察

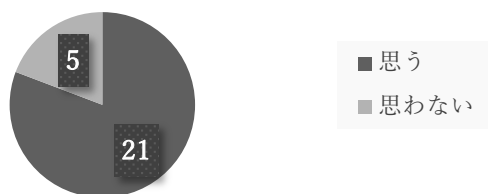
- ・ほとんどの児童は、総合的な学習の時間が「楽しい」「少し楽しい」と肯定的に回答している。また、総合的な学習の時間のどの場面についても、肯定的に捉えている児童が多い。特に、調べ学習を行う過程を楽しんでいる児童が最も多い。その一方で、発表の準備を行うことについて楽しいと感じる児童は多いものの、発表をしたり聞いたりすることが好きな児童は比較的少ない。これらのことから、調べる活動や発表の練習などの、自分の興味・関心に合わせて学習を進めることには好意的であるが、学習したことをまとめ上げる活動には楽しさを感じにくいと考えられる。
- ・総合的な学習の時間を楽しく感じる理由に、見学を挙げた児童が多かった。この選択肢は、教師から提示したものではなく、児童から挙げたものである。これまでの学習の積み重ねから、見学をすることで理解が深まったり、見学を通じて地域とのつながりが深まったりすることを感じ取っていると考えられる。



Q 4 「知っている」と答えた人
それは、どんなところですか。(自由記述)



Q 5 キラキラ橋商店街の良さを
伝えたいと思いますか。

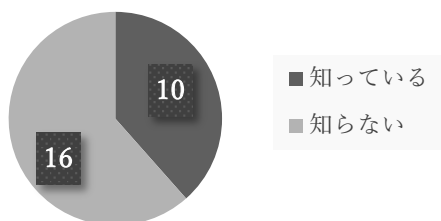


Q 3 キラキラ橋商店街の良さを知っていますか。

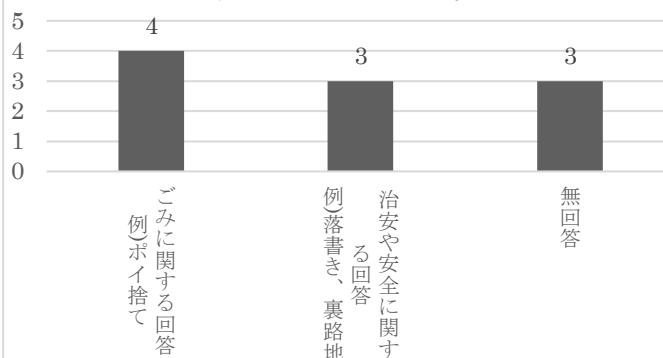
Q 5
キラキラ橋商店街の良さを
伝えたいと思いますか。

	知っている	知らない	計
思う	19人 (73%)	2人 (8%)	21人 (81%)
ない 思わ	2人 (8%)	3人 (12%)	5人 (19%)
計	21人 (81%)	5人 (19%)	26人

Q 6 キラキラ橘商店街の課題 を知っていますか。



Q 7 「知っている」と答えた人 それは、どんなところですか。(自由記述)



Q 8 キラキラ橘商店街のために何かしたいと思いま すか。



考察

- ほとんどの児童が、キラキラ橘商店街の良さを感じ取っている。これは、日常生活からキラキラ橘商店街と関わっていたり、キラキラ橘商店街の行事に参加したりしているためであると考えられる。また、商店街の良さについて、商店街の人について好意的に捉えている回答が、9人と最多であった。商店街の人と日常から関わっているためであると考えられ、児童が商店街を身近に感じている要因でもある。
- キラキラ橘商店街の課題については、知っていると回答した児童が38%(10人)であり、商店街の良さに比べると低い。また、その中でも明確に課題を記述できた児童は、学級の27%(7人)であり、少数である。この結果から、生活の中から課題を見いだしたり、見いだした課題を言語化したりすることに対し、指導上の工夫が求められる。
- キラキラ橘商店街の良さを伝えたいと回答した児童は81%であり、学級でも多数を占めている。特にキラキラ橘商店街の良さに気が付いている児童のほとんどは、その良さを伝えたいと回答している。また、キラキラ橘商店街のために何かしたいと回答した児童は81%であり、これも学級の多数を占めている。このことから、キラキラ橘商店街を教材として扱うことで、児童の主体的な学習活動が見込めると考える。

〈研究仮説〉

児童にとって身近な商店街を活用することで、課題を自分ごととして捉え、良さや改善点に気が付き、未来の商店街について考える活動に取り組むことで主体的・対話的に学ぶことができるだろう。

〈仮説の説明〉

高学年分科会は、多くの児童が普段から利用している商店街を教材とすることで、現状を把握したり良さや改善点に気が付いたりしやすく、自分ごととして学習に取り組むことができると考えた。また、単元の中で集めた情報をもとに問題解決をするため、対話の必然性が生まれ対話的に学ぶことができるのではないかと考えた。

6 研究主題に迫るための手立て

主体的・対話的な学びを実現するための手立て

①学習計画や足跡の視覚化

学習の見通しがもてるよう、学習計画を掲示する。また、未来のキラキラ橋商店街を考えるにあたってポイントとなること（魅力や課題、お店や利用客の願いなど）を基に考えることができるよう、学習の足跡も掲示して児童が常に意識できるようにする。

②目的意識・相手意識の明確化

これまで児童は、地域と密接に関わりながら育ってきた。これまでの生活や生活科などの学習を通して、キラキラ橋商店街の魅力についてはよく理解している。本単元は、キラキラ橋商店街の事務局の人の話を聞くところから学習をスタートする。キラキラ橋商店街には、地域の人に役立っていることや課題があることも知ること未来に目を向けられるようにしたい。単元の最後には、自分たちの考える「未来のキラキラ橋商店街」をキラキラ橋商店街の事務局の人に伝える場面を設定する。何のために調べるのか、誰に伝えるのかなどを児童自身に自覚させ、必要感をもって学習を進めていけるようにする。

③方向性を示すための視点

未来の商店街を考える際、各グループに視点（歴史、自然、文化、食、防災など）をもたせる。そうすることで、出された案を検討する際の判断基準となったり、教師や他グループが助言をする際の基準となったりする。また、各グループに視点を与えることで多様な考えを出させ、発表を聞く際にも興味をもって聞くことができるようにする。

7 実践授業

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和7年11月4日（火）

対 象 第5学年1組 26名

単元名「キラキラ橋探偵団」

単元の目標

キラキラ橋商店街について探る活動を通して、キラキラ橋商店街には様々な魅力や課題があることやキラキラ橋商店街に関わる人々の願いを理解し、未来のキラキラ橋商店街について考えるとともに、自分たちにできることを実践しようとする。

単元の評価規準

評価の観点	単元の評価規準
ア 知識・技能	①キラキラ橋商店街には、歴史・自然・文化・食・防災等、様々な魅力や課題があることを理解している。 ②キラキラ橋商店街は、町を大切にしてきた人々によって成り立っており、それぞれの立場で様々な願いをもっていることを理解している。
イ 思考・判断・表現	①キラキラ橋商店街について、調べたり深めたりしたい課題を発見し、設定している。（課題設定） ②キラキラ橋商店街を探るために、必要な手段を使って情報を集め、集めた情報を友達と共有している。（情報収集） ③集めた情報を整理・分析するために、考えるための技法を用いたり友達と話し合ったりして、情報を比較・分類したり情報の価値を見いだしたりしている。（整理分析） ④商店街の意義や課題、人々の願いを基に、未来のキラキラ橋商店街や自分たちができることについて考え、まとめている。（まとめ・表現）
ウ 主体的に学習に取り組む態度	①キラキラ橋商店街を探るために、自分なりに目標をもって取り組もうとする。 ②「未来のキラキラ橋商店街を考える」という課題を達成するために、他者と進んで関わり、相手の意見を受け入れて尊重しようとしている。 ③地域に住む一人として、自分の住む町に積極的に関わろうとしている。

単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）第5章 第2節「各学校において定める目標の設定」を受けて設定した。

本単元では、「キラキラ橋商店街について探る」という課題から、「キラキラ橋商店街の魅力や課題、人々の願い」を見い出し、「未来のキラキラ橋商店街について考える」という活動につながっていく。問題解決

的な学習を行う中で、歴史・自然・文化・食・防災など様々な視点からキラキラ橘商店街の魅力や課題を捉え直せるようにしたい。また、キラキラ橘商店街に関わる様々な立場の人々の願いを基に、「未来のキラキラ橘商店街」について考え表現する活動を通して、地域に住む一人として自分の住む町に積極的に関わろうとする態度を育てていきたい。

単元の指導計画と評価計画（18時間扱い）

	○学習活動 ・児童の反応	□留意点 ●評価規準（評価方法）
課題の設定 (3)	○キラキラ橘商店街の魅力や課題について話し合う。 ・おいしいお店がたくさんある。 ・イベントがあつていつも賑やか。 ・キラキラ橘商店街のみなさんは優しく、いい人ばかり。 ・ごみが落ちていることがある。 ○キラキラ橘商店街の事務局の人に話を聞く。 ・町を大切にしてきた人たちによって続いできたんだ。 ・世代交代がうまくいかずに営業できない店も出てきている。店舗数が減ってきているみたい。 ・キラキラ橘商店街をよりよい形で残したい。	□児童から出た意見を「環境」、「歴史」、「食」などに分類し、視点を明らかにする。 □意見を交流することで、考えを広げられるようにする。 ●ウー①（観察・発言） □京島地区の歴史や防災についても学び、まちづくりの視点にも目を向けられるようにする。 □事務局長としての思いやキラキラ橘商店街の課題についても話してもらうことで、問題意識をもてるようにする。 ●アー①（観察・ワークシート）
	○調べたいことや調べる方法を話し合う。 ・まずは、キラキラ橘商店街について詳しく知りたい。どんな課題があるのか、実際に見に行ったり、詳しい人に聞いたりしよう。 ・他の商店街について調べたら、参考になるかな。インターネットで情報を集めてみる。 ・商店街の人にインタビューでどんなことで困っているか聞きたい。 ・地域に住んでいる人や観光客の思いも知りたい。アンケートだと多くの人に聞けるから、アンケートをとって調べよう。	□キラキラ橘商店街四吾支部を作り、事務局の人の視点で学習を進める。 ●イー①（発言・ワークシート）

ゴール→キラキラ橘商店街の未来を考えて、事務局長に報告する。

情報の収集（4～13）	○キラキラ橋商店街を現地調査する。 ・新しいお店ができていた。 ・昼間は人通りが少ない。 ・閉まっているお店も多いね。 ○キラキラ橋商店街の魅力について二年生の発表を聞く。 ・自分たちが知らない良さにも気づくことができた。 ○商店街の人にインタビューに行く計画を立て、実施する。 ・商店街の人が困っていることや望んでいることは何か聞きたい。 ○地域の人にアンケートを作成して、実施する。（保護者、児童、商店街の客） ・地域に住んでいる人はどんな願いをもっているのか知りたい。 ○視点を基に、キラキラ橋商店街の魅力や課題について調べる。 ・アーケードのある商店街があったよ。環境 ・夜は閉まっているお店が多いね。仕事の後でも買えると、お客さんが増えるかも。店 ・平日の昼は人が少なかった。もっと人を増やすにはどうしたらよいのかな。観光客	□事前にワークシートに調べたいことを書くことで、見てくることを明確にさせる。 ●イー②（観察・ワークシート） □二年生の発表を聞いて、キラキラ橋商店街の魅力について更に考えを広げる。 □二年生にアドバイスをすることで、自分たちの発表にも生かす。 ●アー①（観察・ワークシート） □インタビューの仕方を指導する。 □それぞれインタビューシートを作っておく。 □商店街の人や地域に住む人、観光客など異なる立場の人にインタビューやアンケートをとることで、様々な人の願いに気付けるようにする。 □アンケートの作成方法を指導する。 ●ウー①（観察・ワークシート） ●イー②（観察・ワークシート） □他の商店街と比較することで、キラキラ橋商店街の魅力や課題に気付けるようにする。 □調べたことを付箋に書き、視点ごとに整理して貼り、全体で共有する。 ●イー③（観察・ワークシート）
整理・分析（14）	○キラキラ橋商店街に関わる人々の願いを整理する。 ・それぞれ違った願いをもっているね。みんなの願いを叶えるにはどうしたらよいか考えよう。	●アー②（観察・ワークシート） ●イー③（観察・ワークシート）

まと め ・ 表 現 (15 〜 18) 本 時	○未来のキラキラ橘商店街がどうなっているかを考え、提案書を作成する。(個人→グループ) ・ごみが落ちていることがあるという課題もあったね。クリーンデイをやるのはどう。環境 ・美味しいお店がたくさんあるのは、キラキラ橘商店街のよさだね。夜の時間も自動販売機みたいにして売れば助かるかも。店 ・観光客にもっときてもらえるように、インスタ映えするスポットを作ろう。観光 ○他の班とアドバイスし合い、再度考える。 ・クリーンデイをやるときにどうやって人を集めますか？(質問) 環境 ・これでは、人とのつながりがなくなってしまうと思います。(反対) 店 ・インスタ映えするスポットを作る案はいいと思います。商店街のキャラクターとか作ると人気が出るかも。(賛成/提案) 観光 ○未来のキラキラ橘商店街がどうなっているか考えたことを事務局長らに伝え、フィードバックをもらい、再考する。また、京島文化まつりで掲示する。 ・自分たちがまとめたことを事務局長に報告しよう。 ・地域の人の願いを伝えられてよかった。	□視点ごとにグループを作る。 □残していきたいところと変えていきたいところを考える。 □まず個人で考える時間を作ることで、自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。 □魅力や課題、人々の願いを基に未来の商店街について考えるように伝える。また、活動中に振り返れるように掲示しておく。 ●イー④(発言・ワークシート) □アドバイスは付箋に書き、残るようにする。 (赤→賛成、青→反対、黄→質問、緑→提案) ●ウー②(観察・ワークシート) □グループごとにブースを作り、事務局長、先生方、地域の人、商店街の人に回ってもらう。 □自分たちがまとめたことを事務局の人に伝えフィードバックをもらったり、京島文化まつりで掲示したりすることで、有用感を高めるようにする。 ●ウー③(観察・ワークシート)
振 り 返 り (19 〜 20)	○活動全体を振り返り、成果や課題を見つめる。 ・キラキラ橘商店街は、町を大切にしてきた人々によって成り立っていることが分かった。 ・お互いに意見を言い合いながら協力して学習が進めることができた。 ・もっと私たちがよい商店街にしていきたい。 ○キラキラ橘商店街のために自分たちができることを考える。	□振り返りを通して、自分の住む町に積極的に関わろうとする思いをもてるようにする。 ●イー④(発言・ワークシート) ●ウー③(観察・ワークシート)

本時（全 20 時間中の第 16 時）

（１）本時の目標

商店街の意義や課題、人々の願いを基に、未来のキラキラ橋商店街について考え、提案書にまとめることができる。

（２）本時の展開

時間	○学習活動 T：教師の発問 C 児童の反応	□指導上の留意点・配慮事項 ●評価(評価方法)
導入 5 分	○これまでの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。 T：キラキラ橋商店街には魅力や課題、人々の願いがありました。 C：私たちが大人になる頃にもよりよい形で残したいね。 C：どんな商店街にしていけばよいか考えてみよう。	□魅力や課題、人々の願いを基に未来の商店街について考えるように伝える。また、活動中に振り返れるように学習の流れや学習の足跡を掲示しておく。
	㊦ キラキラ橋商店街の未来を考えて、提案書にまとめよう。 ○本時の見通しをもつ。	
展開 グループ 2 5 分	○グループごとに話し合い、提案書にまとめる。＜グループ会議＞ C：ごみが落ちていることがあるという課題もあったね。クリーンデイをやるのはどう。環境 C：美味しいお店がたくさんあるのは、キラキラ橋商店街のよさだね。夜の時間も自動販売機みたいにすれば助かるかも。店 C：観光客にもっときてもらえるように、インスタ映えするスポットを作ろう。観光	□視点ごとにグループを作る。 □意見をまとめるのは、ワークシート、ホワイトボードのどちらかを選ぶ。 □個人の考えを書いておくことで、自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。 □残していきたいところと変えていきたいところを考える。
交流 1 0 分	○ペアグループに共有し、アドバイスし合う。＜意見交換会＞ C：クリーンデイをやる時にどうやって人を集めますか？（質問）環境 C：これでは、人とのつながりがなくなってしまおうと思います。（反対）店 C：インスタ映えするスポットを作る案はいいと思います。商店街のキャラクターとか作ると人気が出るかも。（賛成／提案）観光	□アドバイスは付箋に書き、残るようにする。 （赤→賛成、青→反対、黄→質問、緑→提案） ●イー④（発言・ワークシート）

まとめ 5分	○今日の活動を振り返り、振り返りカードに書く。 C: 他クラスのアイデアも良かった。 C: 環境については考えてなかった。 C: アドバイスをもらったからもう一度考えてみたい。 ○次時の活動を確認する。	□次時に繋がる意見を拾い、発表させる。
-----------	--	----------------------------

<板書①>

㊦キラキラ橋商店街の未来を考えて、提案書にまとめよう。

文化・伝統 グループ

①残していきたい魅力 ふせんをもとに考えよう。

・レトロな町なみ
ふるさとのような場所になっていて、人気があり、映画のロケ地にもなっている。

・地域密着型なところ
夏祭りやつまみ食いウォークなどのイベントがあり、地域の人と交流できる。事務局の人やお店の人、その土地に住む人のくらしやすさを考えている。

②自分たちの提案 課題や願いをもとに

・町の工場で作った製品の展示・販売
商店街の近くには工場がいくつもあるのだから、その製品を紹介し、広めたい。

・映画の町としてイベントを開く
昔、商店街の名前の由来になった映画館があったこと、今も映画のロケ地になっていることから、映画の町としてアピールする。公園にスクリーンを置いて、お店の商品を食べながら、レトロ映画を見られるイベントを開く。

書き方の例

イベントを増やしたい
という地域の願い

シアターをもどしたい
という地域の願い

文化・伝統

魅力

課題

学習の流れ

○めあての確認

魅力や課題、みんなの願いをもとに考えよう!!

○グループ会議

- ・残していきたい魅力
- ・自分たちの提案

○グループごとに発表の準備

- ・分担、練習

○意見交かん会

- ・ペアグループに発表し、意見をもらう。

○ふりかえり

<モニター>

グループ会議

○残していきたい魅力

- ①一人ずつ発表。
- ②2、3つにしぼる。
- ③どうしても残していきたいか理由も書く。

○自分たちの提案

- ①一人ずつ発表。
- ②2、3つにしぼる。
- ③具体的な案をくわしく考える。

意見交かん会 A発表 B聞く

①A発表する。

②Bふせんを書く。(必ず1人1枚以上)

賛成

<例>
〇〇というアイデアがとてもよいと思いました。

反対

<例>
この案だと、人との交流が少なくなってしまうと思います。

質問

<例>
どうして〇〇を残したいと思ったのですか。

提案

<例>
〇〇したらよいと思います。

③BがAに意見を言う。 →終わったら交代

<その他の掲示>

①学習計画表と学習の足跡

キラキラ橋探偵団

キラキラ橋商店街四吾支部

目的
キラキラ橋商店街を未来によりよい形で残す！

調査計画とその方法

①キラキラ橋商店街の現状 (魅力や課題)	⇒ 実際に行く！ (9/30)
②人々の願い (店の人、地域の人)	⇒ アンケート インタビュー
③他の商店街	⇒ インターネット 本

ゴール

キラキラ橋商店街の未来を考えて、
事務局長に報告する！！

キラキラ橋探偵団

東田安福小学校 5年生

目的
キラキラ橋商店街を調査して、未来によりよい形で残すために何ができるかを考える。

活動経過

①キラキラ橋商店街 事務局長大和さんに話を聞く。

②キラキラ橋商店街の見学に行く。

③お店の人にインタビューをする。

④地域の人にアンケートをとる。

⑤情報を整理する。

⑥キラキラ橋商店街の未来について考え、決断書を作る。

⑦決断書を見てもらい、フィードバックをもらう。

⑧キラキラ橋商店街を未来によりよい形で残すために、自分達ができることを考える。

②視点別に、魅力・課題・願い・提案をふせんに書き整理したもの。



8 協議会記録

(1) 協議会より

<課題・よかったこと>

- ・付箋があつてよかった。

<質問>

- ・視点はどのように決めていたのか。子ども→魅力などは書いていた（付箋）。
- ・分科会で視点を決めた。

<課題案>

- ・交流会。ボード（付箋）を使っていたところはよかった。使っていなかった班もあった。
- 前時に活用した。付箋に書いてあることを見ているところの話し合いが深まった。
- ・提案書。振り返るときに課題がクリアされると身に付くのではないか。
- ワークシートに課題についての視点があってもよかった。
- 課題が多いところから考えていくのがよかったのでは。
- ・交流会。意見を受け入れるのが難しい子もいた。
- 書いていたら読んで伝えるとしていたが、付箋を書くだけでもよかったか、伝えるだけでもよかったか。
- ・ゴールを意識させて、ポジティブなことが言えるとよかったのか（意見交換）。
- 交流会のためのメリットを伝えてからスタートする。
- ・付箋が「こうするとともによい」というものだけでもよい。
- ・魅力をワークシートに入れた理由を知りたい。
- アンケートやインタビューから素敵が見つかった。
- ・魅力や残ってほしいことを事務局に伝えた方がよさそう。

(2) 指導助言

- ・未来の商店街（例：食料生産）
- ・自分たちでできること（例：水、ゴミ）
- ・研究のウリ：4月からどう変わってきているのか。
- ・主体的な学び：「見通し」「振り返り」「構築」
- ・対話的な学び：「考えを広げる、深める」
- ・地域の教材を使つての手立てを考える。→学校として共有しているか。
（主体的か？対話的か？その他か？）
- ・アンケートより：良さを知らない、伝えてくれない子にどうしたらよいか。
- ・それぞれにどのような手立てをとるか。

<本時について>

- ・根拠が活かしているか（課題から）。
- ・主語が「自分」か「お店」かで変わっていく。
- ・付箋が多いと見にくいことが多いので、精査するとよい（分析）。
- ・交流会：何を書けばよかったのか。→「声の大きさ」は×など。内容を書く。
- ・交流の持たせ方、交流の必然性があるか。
- 「お店の人の思いが〇〇だから、△△にしました」など

9 研究のまとめ

(1) 各手だての検証

i 手だてに沿った検証

○学習計画や足跡の視覚化

- ・学習計画を掲示したことで見通しがもて、インタビューの内容作りやアンケート集計など見通しをもって意欲的に取り組むことができた。
- ・学習を進めていく過程で得た情報（課題や魅力、願い）を掲示したことで、提案書を作成する際に、常に振り返り、提案書に生かしている児童が多かった。
- ・掲示物に付箋紙を貼ったことで、かなりの情報量になった。提案書を作成する際、話し合いの広がりは見られたが、活用しきれない部分もあった。話し合いを深めるためには、情報を精査する必要がある。
- ・付箋紙が充実したことで、やり遂げた感覚になり、それらの条件から離れて話し合っているグループが見られた。掲示物をそれぞれのグループの近くには配置したが、常に意識できるような言葉かけが必要だった。

○目的意識・相手意識の明確化

- ・当初は、身近な商店街がゆえに、新鮮さにつけ、なかなか意欲がもてない児童もいた。しかし、事務局長の具体的な話を聞き、自分たちの提案に期待してくれていることや、実際にキラキラ橘商店街に生かしてもらえるかもしれないという投げかけが意欲につながり、主体的に取り組むことができた。
- ・最終的に「事務局長への提案」という相手や目的を明確にしたことで、情報を集めるためにインタビュー内容を考えたりアンケートの集計をしたりと、主体的に取り組む姿が見られた。
- ・子供たちの考えたことが実現されるような取り組み（商店街のイベントを企画するなど）ができると、結果も実際に見られることで、活動全体の振り返りも深まり、さらなる主体的な学習につながったのではないかと。

○方向性を示すための視点

- ・グループごとに視点を持たせたのは、児童一人一人が考えを出したりまとめたりする際に有効だった。
- ・付箋を活用したことで、情報をまとめたり分類したりすることができ、整理がしやすかった。
- ・視点ごとに出した付箋を活用しているグループは話し合いが深まった。
- ・視点は児童の意見をもとに、こちらから提示したが、自分たちで視点を考えさせることで、さらにまとめが深まったのではないかと。

ii 事後アンケートより

Q 1 「総合的な学習の時間」は、楽しいですか。

	事前	事後		事後	事後
楽しい	16人	15人	あまり楽しくない	1人	1人
少し楽しい	9人	9人	楽しくない	0人	1人

Q 2 「楽しい」「少し楽しい」と答えた人は、理由を教えてください。(複数回答可)

	事前	事後
課題を自分たちで決められるから・疑問を見つけて解決するのが楽しいから	13人	16人
みんなと話し合って、一緒に進めるのが好きだから	13人	14人
調べ学習が好きだから	15人	15人
見学をするのが好きだから	11人	14人
発表の方法を考えたり、練習したりするのが好きだから	12人	17人
みんなの前で発表するのが好きだから	3人	8人
発表を聞くのが好きだから	6人	8人
その他	10人	9人

Q 3 キラキラ橋商店街の良さを知っていますか。

	事前	事後
知っている	21人	24人
知らない	5人	2人

Q 4 「知っている」と答えた人、それはどんなところですか。(自由記述)

	事前	事後
商店街の人に関する回答 (例)すぐ仲良くなれる、優しい	9人	14人
商店街の活気に関する回答 (例)にぎわっている、行事が楽しい	5人	2人
商店街の店に関する回答 (例)色々な店がある	3人	4人
治安や安全に関する回答 (例)治安がいい	2人	1人
明確な理由がない	5人	3人

Q 5 キラキラ橋商店街の良さを伝えたいと思いますか。

	事前	事後
思う	21人	20人
思わない	5人	6人

Q 6 キラキラ橋商店街の課題を知っていますか。

	事前	事後
知っている	10人	16人
知らない	16人	10人

Q 7 「知っている」と答えた人、それはどんなところですか。(自由記述)

	事前	事後
ごみに関する回答 (例)ポイ捨て	4 人	7 人
治安や安全に関する回答 (例)落書き、裏路地	3 人	4 人
商店街の店に関する回答 (例)閉店している店がある、高齢化	0 人	4 人
無回答	3 人	1 人

Q 8 キラキラ橋商店街のために何かしたいと思いますか。

	事前	事後
思う	2 1 人	2 2 人
思わない	5 人	4 人

〈考察〉

- ・総合的な学習の時間を楽しく感じる要因については、ほとんどの項目で回答が増えていて、本学習を通じて、より総合的な学習を楽しく感じられているのだと考えられる。特に、発表に関する項目を楽しく感じた児童は、大きく増えており、自分の考えを他者に伝えることに対して、肯定的になっている。
- ・キラキラ橋商店街の良さと課題について、知っている児童が増えた。実際にインタビューや見学を行ったことで、学習内容が定着したと考えられる。
- ・対話的に学ぶ児童の育成には、一定の成果があったものの、主体的に取り組む児童の育成のための手立てに対しては再度検討していく必要がある。

(2) 成果と課題 (成果○ 課題◆)

- 児童の生活に身近な「キラキラ橋商店街」を教材にしたことで、興味をもちやすく意欲的に取り組む姿が多く見られた。
- アンケートやインタビュー、提案書作成と活動ごとにグループを変えながら単元を進めたことで、児童の関わりが固定的にならず、多くの児童同士で対話的にかかわる姿が多く見られた。
- 提案書を作成する際、話し合いの広がりは見られたが、情報が多く集まっていたのでグループで精選する時間を確保した方が、話し合いが深まったのではないかな。
- 未来の商店街を考えるよりも、子供たちの考えたことが実現されるようなこと(商店街のイベント内で1つ企画するなど)ができるとより主体的に学ぶことができるのではないかな。

たんぽぽ分科会

たんぽぽ 4 ・ 5 組

『学校の周りの危険からみんなを守れ！』

4 研究主題の捉え方

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」
—身近な地域素材を活用した教材開発を通して—

〈分科会の捉え方〉

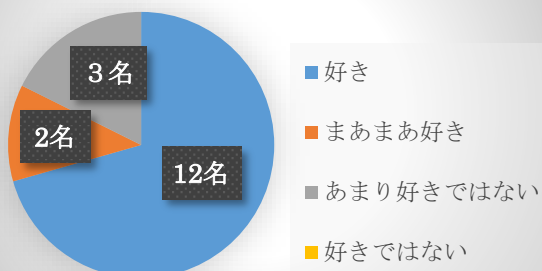
変化が激しいこれからの時代を生き抜くために、子供たちには、知識や技術だけでなく、予測できない変化に主体的に向き合い、他者と協力しながら、生涯にわたって能動的に学び続ける姿勢が求められている。知的特別支援学級である本学級においても、「主体的・対話的な学び」の視点で授業作りを行うことで、時代の変化に適応し、自立と社会参加に繋がる資質・能力を育成していくことが重要である。

今回、児童は、自分たちが住んでいる地域の中で「危ない場所」を見つけ、安全マップを作る活動を行う。また、自分たちの通学路だけでなく、たんぼぼ学級の1，2年生の通学路を調べ、危ない場所を下級生に教えてあげるという活動に繋げていく。普段から歩き慣れている道や、見慣れた場所という、児童にとって身近な地域教材を扱うことや、「自分たちだけでなく、1年生や2年生にも危ない場所を教えてあげよう」という学習課題を設定することで、興味・関心をもち、自分たちの生活と関係づけながら、自ら進んで学習課題に取り組むことができるのではないかと考える。安全マップ作りについては、近くに住み、同じ通学路を使っている児童同士でグループになり、地図作成ソフトを使ってマップを作成していく。「あの場所は危ないよね」「いつも歩いているあの道が危険だね」と、同じ情報をもっているからこそ、互いに意見を出し合い、問題の解決に向けて協働的に学んでいくことが予想される。また、危険な場所を見つける段階で、警察の方や地域の方に話を聞いたり、インタビューをしたりする場面を設定する。様々な立場の人から話を聞くことで、友達や教師との関わり合いから生まれる学びだけでなく、より自分たちの考えを広げ、深めていけるのではないかと考える。

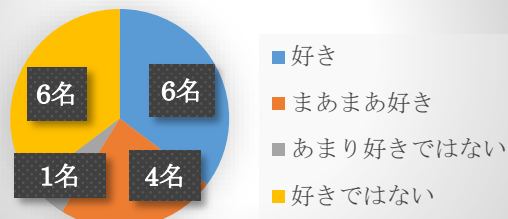
5 児童の実態について

～調べること、話し合うことについてのアンケート～（令和7年6月6日実施18名）

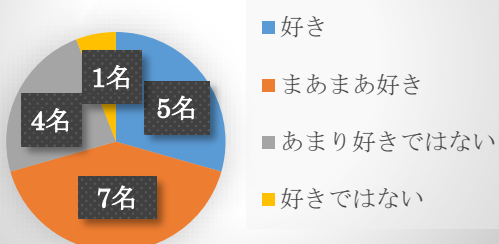
①調べることは好きですか。



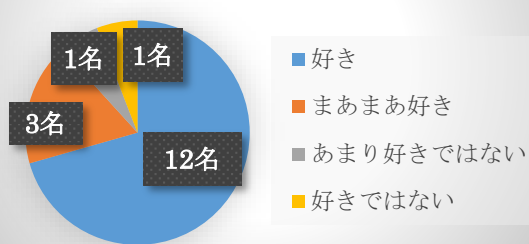
②インタビューすることは好きですか。



③自分の意見を発表することは好きですか。



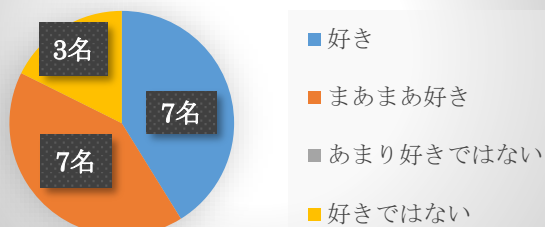
④気になることに対して自分で調査したり、情報を集めたりすることは好きですか。



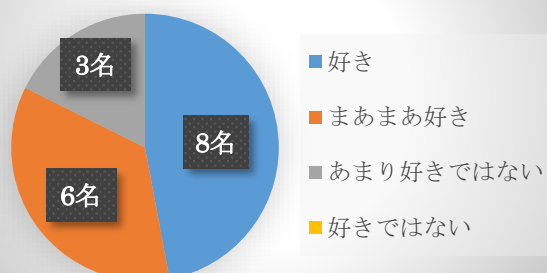
⑤友達と話すことは好きですか。



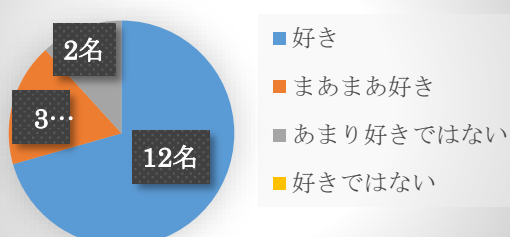
⑥先生に知っていることを伝えることは好きですか。



⑦知っていることを低学年に伝えることは好きですか。



⑧話し合うことは好きですか。



【考察】

・『①調べること』については、8割の児童が「好きまたはまあまあ好き」と回答している。『④自分の気になることに対して自分で調査したり情報を集めたりすること』については、「好き」または「まあまあ好き」と答えた児童が9割弱となっている。教師が与えたテーマを調べることよりも、自分が気になったことについて調べることの方が好きの割合が高い。

→児童が自分の気になったことを調べることが、主体的な学びへと繋がると考える。

・『②インタビュー』については、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童が6割であった。一方「あまり好きではない」または「好きではない」と回答した児童は4割であった。

→インタビューの経験を重ねることで自信をつけていくことが必要である。

・『③意見を発表すること』については、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童が7割であった。

→話す内容を予め決めたり、グループやペアで発表したりすることが、「あまり好きではない」や「好きではない」と回答した3割の児童にとっては、安心して発表できる場になると考える。

・『⑤友達と話すこと』については、全員が好きと回答した。『⑧話し合うこと』については、9割弱の児童が好きまたはまあまあ好きと回答した。

→5～6年間一緒に学校生活を送っていることもあり、友達と話すことに抵抗はないが、学習中の話し合いについては、少し抵抗を感じる児童もいる。

・『⑥先生に知っていることを伝えること』については、8割の児童が「好き」または「まあまあ好き」と回答した。『⑦低学年に知っていることを伝えること』については、「好き」または「まあまあ好き」と回答した児童が⑥と同じ割合である。

→知っていることを先生に伝えるよりも低学年の児童に伝える方が好きの割合が少し高くなっている。低学年に伝えようという場を設定することで、主体的な学習へと繋がると考える。

～安全に関するアンケート～（令和7年9月12日実施 18名）

○こども110番を知っていますか。

知っている（17名） 知らない（1名）

○登下校するときの、危険な場所を知っていますか。どんな場所に気をつけていますか。

（交通安全関係）

- ・車が多い道に気をつける。（7名）
- ・信号がない交差点 （2名）
- ・明治通りに車が多くて車に敷かれる危険がある。
- ・信号がない横断歩道
- ・信号が青の時に渡ろうとすると、車の信号は赤なのに車が来る。
- ・大通りの時に車が来たり、道が狭かったりしたりするから気をつける。
- ・線路、信号を二つ通る。
- ・歩道を歩く。
- ・狭い道を通らない。
- ・車が通る道に気をつける。
- ・人が多いところ、車が多いところ、信号がないところに気をつける。

（防犯関係）

- ・夜になると道が暗くなる。(3名)

(防災関係)

- ・さかな、古い家
- ・電柱
- ・電柱がある道に気をつける。

(その他)

- ・危険なところはあまりない。
- ・ない (2名)

【考察】

子ども110番についてはほとんどの児童があることを知っている。

登下校の危険な場所については、交通安全に関することに気付いている児童が多い。一人登下校をしている児童が多く、日々交通ルールを意識しているためと考えられる。また1年生から実施している交通安全教室や毎月の交通安全目標の積み重ねの成果と考えられる。通学路の防犯について意識している児童は少ないため、警察の方や地域の方からの話を聞き、意識を向けることが必要と考える。

6 研究主題に迫るための手立て

主体的・対話的な学びを実現するための手立て

① 警察や地域の方から話を聞く場の設定

単元の導入では、警察の方や管理員さんから登下校の安全についての話をしていただき、通学路の交通安全や防犯についての意識を高める。危険な場所を見つける段階では、実際に通学路を歩き、撮影する。その後、地域の防犯部長の方から話を聞く場面を設定し、考えを広げ深めていく。(対話的な学び)

② 通学路別の安全マップ作り(目的意識の明確化)

「こども安全マップ」(東京都防犯ネットワーク)のソフトを活用し通学路が同じグループで安全マップを作成する。グループ内で危険な場所についての情報を共有し、意見を交換しながら作成できるようにする。児童の実態に合わせた役割を分担しながら取り組めるようにする。(対話的な学び)

③ 他者に向けて伝える場の設定(相手意識の明確化)

単元の最後には、「1年生や2年生にも通学路の危険な場所を伝えよう。」という場を設定する。相手意識を明確化することで、低学年を危険から守るために調べよう、わかりやすく伝えようと主体的に取り組めると考える。(主体的な学び)

7 実践授業

たんぽぽ学級 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和7年12月12日(月)

対 象 たんぽぽ4・5組

4年 1名

5年 3名

6年 14名

計18名

単元名 学校の周りの危険からみんなを守れ！

単元の目標

通学路における安全マップを作成する活動を通して、通学路の危険に気付き、下級生に伝えて自身も安全に行動できるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性
① 危険なところや安全なところはどんなところか理解している。	① 交通安全教室などから学んだことをもとに日常生活を振り返り、自分たちが知りたいことや伝えたいことを見つけている。 ② 危ない場所を見つけ、理由を考える。 ③ 調べたことを安全マップにまとめている。 ④ 危ない場所について、分かりやすくまとめ、下級生に伝えている。	① 活動の中でまちの安全のために自分にできることを考えようとしている。 ② インタビューを通して、安全なまちにしていくために地域の人とよりよく関わろうとしている。

単元について

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）第5章 第2節「各学校において定める目標の設定」を受けて設定した。

たんぽぽ学級の高学年は4月当初から1年生と「一緒に遊びたい」「勉強を教えてあげたい」という思いがあり、低学年との関わりをもてるような学習を進めてきた。「1年生と仲よくなろう」では1年生も楽しめる遊びを考えて一緒に遊び、「学校を紹介しよう」では、自分の好きな学校の場所を紹介するだけでなく、危ない場所についても伝えていた。低学年の「地震から身を守ろう」の学習の際は、高学年が廊下や体育館などで地震が起きたときにどうしたらいいか教えることができた。学習を進めるにつれて

高学年の児童は低学年の児童に教えてあげたいという気持ちがさらに高まっている。

本単元では、「学校の周りの危険な場所を探せ！」というミッションから、自分たちの登下校の道をフィールドワークすることで危険な場所について気が付かせていきたい。フィールドワークでは、交通安全の面だけでなく、向島警察署の方の話を聞いて防犯面の視点ももって取り組めるようにする。フィールドワークの際には、「こども安全マップ」を使用し、地図上に写真を取り込み、イラストスタンプで示したり、文字で説明したりするようにする。またフィールドワーク後は、低学年に伝える場面を設け、フィールドワークなどで地域の方と関わる活動を通して、登下校の際に安全に行動できる力を育てていきたい。

単元の指導計画と評価計画（20時間扱い）

	時間	目標	活動	評価＜関連する観点＞
課題の設定	1	安全な登下校のために、気をつけていることを考える。	・ミッション1を知る。 「学校の周りの危険な場所を探せ！」 ・登下校のときに、気をつけていること（危険な場所）を話し合う。	交通安全教室などから学んだことをもとに日常生活を振り返り、自分たちが知りたいことや伝えたいことを見つけている〈思①〉。
	2	防犯の面からどのような場所が危険か知る。	・「いかのおすし」を確認する。 ・向島警察署の方から犯罪が起こりやすい場所や時間についての話を聞き、どんな場所が危険か知る。	危険なところや安全なところはどんなところか理解している。〈知識①〉
	3 本時	通学路の危険な場所を見付けることができる。	・グループに分かれて、写真を見て、どこが危険か話し合う。	危ない場所を見つけ、危険を避ける方法を考える。〈思②〉
情報の収集①	4	登下校の際にどんな場面が危険か知る。	- ミッション2を知る。 「学校の周りの危険を調査し、安全マップを作成せよ！」 ・管理員さんから話を聞き、登下校の際の危険について知る。（学校の近くの横断歩道に行く） ・子ども、車、自転車の危険	危険なところや安全なところはどんなところか理解している。〈知識①〉
	5	フィールドワーク（安全マップ作成）の計画（準備）を立てる。	・住んでいる場所が近い児童とグループになり、役割分担を行う。白地図を使用し、自分たちが住んでいる地域の危険な場所に着目し、フィールドワークの計画を立てる。	調べたことを安全マップにまとめている。〈思①〉

	6 7 8 9	フィールドワークをする。	・グループに分かれて、危険な場所を調べる。写真も撮影する。	危ない場所を見つけ、安全マップに入力している。〈思③〉
整理	10 11	安全マップを作る。	・安全マップづくりを行う。 ・写真や言葉を使い、安全マップにまとめる。	調べたことを安全マップにまとめている。〈思③〉
情報の収集②	12	フィールドワーク（安全マップ作成）の計画（準備）を立てよう。	ミッション3を知る。 「低学年の通学路の危険を調査し、安全マップを作成せよ！」 ・低学年の通学路を確認し、グループ編成を替えて、役割分担を行う。白地図を使用し、自分たちが住んでいる地域の危険な場所に着目し、フィールドワークの計画を立てる。	危険なところや安全なところはどんなところか理解している。〈知識①〉
	13	まちの防犯についての取り組みを知る。	・地域の方の話を聞き、町会での防犯の取り組みについて知る。 ・知りたいことをインタビューする。	インタビューを通して、安全なまちにしていくなために地域の人とよりよく関わろうとしている。〈態度②〉
	14 15 16	フィールドワークをする。	・グループに分かれて、危険な場所を調べる。写真も撮影する。	危ない場所を見つけ、安全マップに入力している。〈思考③〉
整理・分析	17 18	安全マップを作る。	・安全マップづくりを行う。 ・写真や言葉を使い、安全マップにまとめる。	調べたことを安全マップにまとめている。〈思考③〉
まとめ・表現	19 20	発表練習をし、低学年に調べたことを伝える。	ミッション4を知る。 「調査したことを低学年に伝えて、たんぼぼのみんなを守れ！」 ・発表練習をする。 ・低学年に安全マップを発表する。	危ない場所について、分かりやすくまとめ、下級生に伝えている。〈思考④〉 活動の中でまちの安全のために自分にできることを考えようとしている。〈態度①〉

本時の学習（3/20時間）

（1）目標

通学路の危険な場所を見付け、一番危険な場所とその理由を話し合う。

（2）展開

時間	活動 C 予想される姿	◇指導・支援 ☆評価
導入 5分	1 前回、警察署の方に応んな話を聞いたか、ふり返る。 C:防犯について C:暗いところは危ないって言っていた C:危ないときは、大人に知らせる。 C:子ども110番に行く。 2 本時のめあてを確認する。	◇警察署の方から話を聞いている写真や、話していただいたポイントを提示し、想起しやすくしておく。 ◇危ない場所のポイントを掲示する。（暗い、道が狭い、時間帯）
	通学路を見て危険な場所を見付けて話し合おう。	
展開 10分	3 学校の近隣の危険な場所を提示し、全体でどのような部分が危険か考える。 C:道路が狭い C:自転車が通る。 C:車が止まっている。危ない。	◇実際の写真を使用し、付箋を貼ったものを見本として提示する。 ◇ICTにうつす。
12分	4 通学路のグループごとに分かれて、自分たちの通学路にある危険な部分を探す。 一人タイム ・ICTの写真を見て、危険な場所を探し、付箋に書く。（1人2枚） グループタイム ・通学路の危険な場所を発表する。	
10分	5 それぞれ出した危険の中で、その場にいるみんなに伝えたい一番危険な場所と、理由を話し合う。 ・大きな写真に、見つけた危険な場所の付箋を貼り、話し合う。 ・ワークシートに危険な場所とその理由を書く。	◇グループごとに分かれる。 ◇通学路の写真を提示し、見つけた危険な場所を順番に発表する。（写真に付箋を貼る。） ☆通学路の危険な場所を見付け、一番危険な場所とその理由を考えている。（発言、態度、ワークシート） ◇Y:介助員と一緒に取り組む。 ◇ICTを使用し、画面に映して発表する。

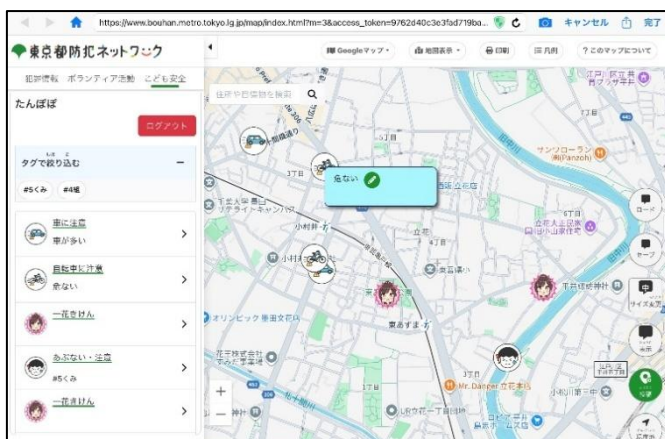
5分	6 話し合った一番危険な場所と理由をグループごとに発表する。	
まとめ 3分	7 本時のふりかえりをする。	◇防犯についておさえる。 ・暗い道、狭い道や一人だけになる場所など、ポイントをおさえる。

資料

① 各グループの危険な場所の写真



② 「こども安全マップ」(東京都防犯ネットワーク) のソフト



座席

黒板



A



B

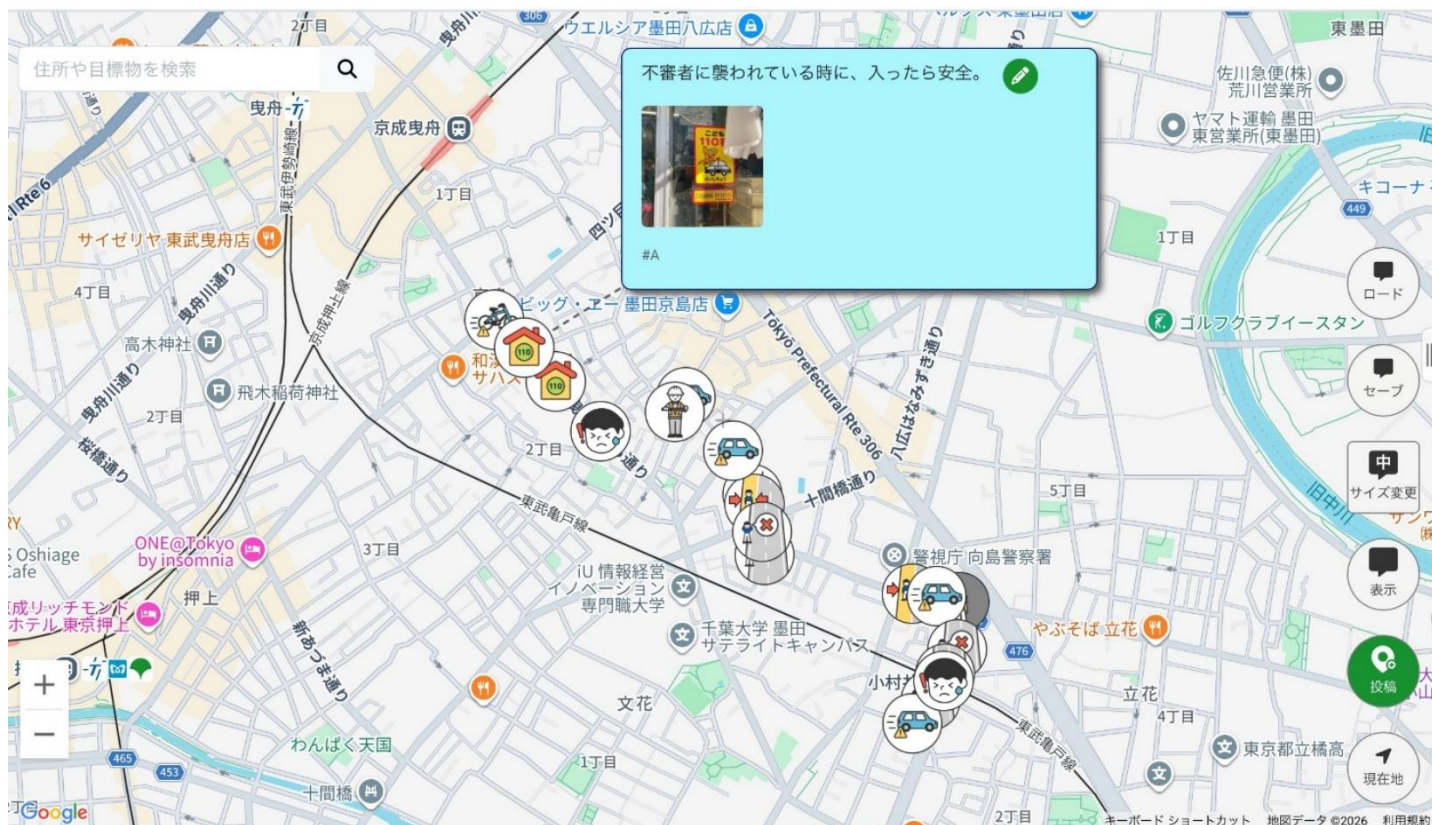


C



D

A



B



C



D



8 協議会記録

(1) 協議会より

(ア) 低学年

組み立ても、ミッションという設定も素晴らしかった。

(1) 通学路が同じグループで話し合いをしたことは、対話的な学びに効果的であったか。

- ・実態にあった。
- ・逆に全く知らない道でもよかったのではないか。

(2) 目的意識、相手意識の明確化は、主体的な学びに効果的であったか。

- ・単元全体を通しては効果あり。
- ・今回の授業の目的意識は特別にあったのか。
- ・その他

ICT とワークシート分けた意図？→拡大したりすることを想定、話し合いの時にグループ全員で見やすいから分けた。

1 番危険な場所に絞らせた意図？→児童の実態的に、言う側も、聞く側も。最後に残らない。
今回の授業の目的意識は特別にあったのか？→校長先生のミッションのビデオの中に含まれていて、子供達には落ちていた。特別支援の児童にたくさんの情報が逆効果になることがあることを配慮している。

(イ) 高学年

(1) 通学路が同じグループで話し合いをしたことは、対話的な学びに効果的であったか。

効果あり、写真以上の情報があり、通ったことがあるからイメージしやすい。

(2) 目的意識、相手意識の明確化は、主体的な学びに効果的であったか。

目的意識あり、意欲的に取り組んでいた。

その他

写真 1 枚だったが、昼版、夜版があってもいい？→夜も写真を撮ったが暗い時間でも見えやすくなってしまった。考えはしたが、話の中で取り上げていく方が効果的と判断した。

付箋 2 枚でなく、多くても良かった？意図は？→能力差があり、2 枚が精一杯の児童も。今回は 2 枚に設定。

(ウ) 副校長

ワークシートや発問にある「どうして？」理由の回答がずれる児童が何人かいた。児童の言語理解の差があり、文言の「どうして」があいまいで難しかったのかもしれない。

→理由まで迫らず子どものわかりやすい言葉で伝え、自分の言葉で伝えられるようにした。

(2) 指導・講評（指導助言 国士舘大学 教授 秋田 博昭先生）

『校内研究全体について』

1 番の売りは何か？（個→小グループ）

校内研究は子供を伸ばすがメインだが、そのために授業改善をどうしていくか？

患者にとって 1 番いいは？「腕のいい、性格の悪い」

悪いのは？「腕の悪い、性格悪い」→そもそも集まらない

「腕の悪い、性格のいい」が1番恐ろしい。（ドラマ「まどか26歳」研修医ドラマより）
教員も同じで、患者は医師を選べるが、子供は担任を選べない。研鑽を積む必要がある。

『1年間の研究の振り返り』

2年生、5年生、今日のたんぼぼ学級を見て行くと、主体的対話的な学びを実現するための手立てを考えてきた軌跡が見ることができる。

ここまでの共通する手立て

見通しがわかる表示＝学習計画（高学年なら一緒に作っていく）

学校一体としてやってはどうか。

あなたは何を題材開発したか？4月から自分たちの授業はどこが変わったか？

『単元について』

児童の実態理解分析的にできるため、児童アンケートをもとに進めていくのが良い。発表が苦手な児童の人数を把握し、安心して発表するよう手立てを準備することができる。また、低学年に伝えることが好きなことも実態を見て分かった。

- ・インタビュー経験→対話的な学びを実現するための手立てにつながる。
- ・低学年紹介→主体的な学びを実現するための手立てにつながる。

『総合学習の指導計画について（スパイラル、繰り返し）』

単元の中で何回くらいスパイラルしていくとよいか。

→ミッション1の中で、2の中で、積み重なっていくと予想されます。通常では、スパイラルの繰り返しの際、児童の中から新たな疑問を出したいところだが、たんぼぼ学級の児童の実態的に難しければ、校長先生ミッションで進めるのもよいでしょう。

今日はミッションをクリアしたので、児童の満足感、高かった。子どものゴールと先生の持つゴールがあっていた。

単元目標から、「安全マップを制作」これは白地図から作るのか？Web上の地図に書き込んでいくのか？どちらが適しているのか。それとも児童に合わせ両方か？課題意識の引き出し方の調査をしたら、子供達にどうする？と問いかけると、児童から「安全マップ」と言う意見出てくるのではないだろうか？低学年に伝えるというゴールですが、伝わったがわかるのは相手のリアクションなので、伝える対象は低学年だけでなくでもいいのではないか？

本時について、自分の通学路を調べる必然性はあるが、本時はうまく落ちていない児童もいた。

話し合いのところ、「1番」でなく「同じところ、違うところ」で話し合うスタイルでなくても良かったのではないだろうか。「1番」にするなら、「じゃあ、本当に危ないのか現場に行ってみよう！」と言って次へのアプローチを行うことができるかもしれない。

9 研究のまとめ

(1) 各手だての検証

i 手だてに沿った検証

① 警察や地域の方から話を聞く場の設定

○単元の導入で向島警察の方や管理員さんから登下校の安全についての話を聞くことで、交通安全や防犯についての意識を高めることができ、安全マップ作りに生かすことができた。

○通学路の安全マップ作りで出た疑問について（小村井駅の踏切、パトロールをしている場所）小村井交番に出かけ、インタビューをすることができた。

② 通学路別の安全マップ作り（目的意識の明確化）

○安全マップを作成する目的があったため、フィールドワークでは、危ない場所を探す意欲につながった。

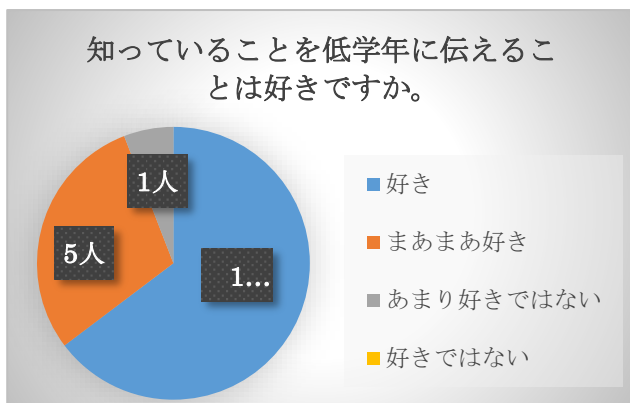
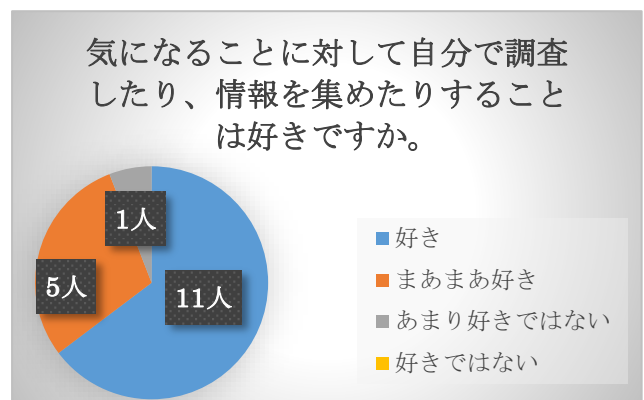
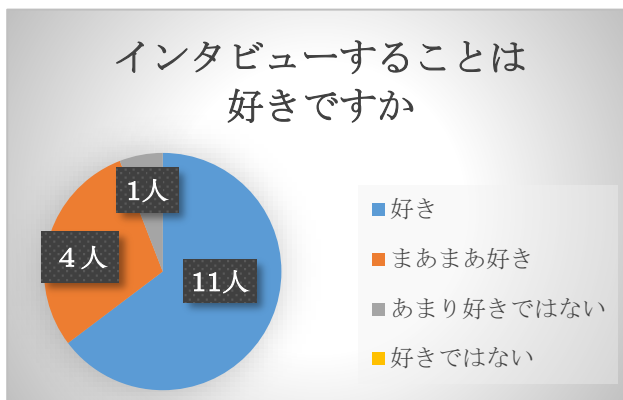
○通学路別のグループを編成したことで、ソフトを使った安全マップ作りを通して、グループ内での話し合いを深めることができた。

③ 他者に向けて伝える場の設定（相手意識の明確化）

○低学年に伝えるために、相手を意識し、伝えたい内容や伝える方法を工夫し、意欲的に活動することができた。

○自分たちの通学路の安全マップ作りの後に低学年の通学路の安全マップを作成したことで、学習の積み重ねができた。

ii 事後アンケートより



3つの項目において、「好き」の数値が伸びている。特に「インタビューすることは好きですか」の項目では、学習の前は、インタビューが好きではない児童が6名いたが、事後アンケートでは0名になり、

インタビューが好き・まあまあ好きが増えた。フィールドワーク後に疑問に思ったことを直接小村井交番の警察官にインタビューした経験により、数値が伸びたと思われる。また、「気になることに対して自分で調査したり、情報を集めたりすることは好きですか」の項目では、学習前は、好きな児童が1名であったが、事後アンケートでは好きな児童は11名に増えた。実際にフィールドワークを行い、安全マップを作成する体験をしたことで、調査をしたり、情報を集めたりする学習を楽しく感じる児童が増えたと思われる。

（２）成果と課題（成果○ 課題◆）

- 低学年に通学路の危険な場所を伝えようというゴールがあったことで、単元の最後まで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- 伝える場面では、低学年にわかるように、安全マップだけでなくクイズや劇などを取り入れ、表現方法を工夫することができた。
- 校長先生からの「ミッション」を設定することで、主体的な活動につながったとともに、ミッションを解決するという見通しをもって学習を進めることができた。
- ◆地域の方から防犯についてのインタビューを計画していたが、学習を進めていく中で、調べたい内容から、地域の交番にインタビューすることに変更した。事前に地域の人材についてもっと調べておく必要があった。

Ⅲ 研究のまとめ

10 各学年の地域との関わりについて

	第1学年	第2学年	第3学年
地域教材・施設	押尾川部屋	キラキラ橋商店街	地域の防災士
主たる教科	生活科	生活科	社会科
単元名	まちたんけん	わたしたちの町のすてきはっけん！	わたしたちのくらしを守っている人々（消防）
単元目標 （重点目標）	自分の住む町に興味関心をもってすすんで関わり、新たに発見したり気付いたりしていく。地域に愛着をもち、自分の生活と町を肯定的に結びつける。	地域の様々な場所を訪ねたり、利用したりする活動を通して、地域には様々な場所があることや人がいることに気付くとともに地域の場所や人に親しみをもつ。	わたしたちのくらしを守っている人たちの活動や様子を学び、自分と地域のつながりについて知る。
関連する教科等	体育科		

	第4学年	第5学年	第6学年
地域教材	栄真堂（書店）	キラキラ橋商店街	IU 大学
主たる教科	国語科	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
単元名	本は友達「本のポップや帯を作ろう」	キラキラ橋探偵団	キャリア教育
単元目標 （重点目標）	読んだ本のよさについて交流することで、一人一人の感じ方の違いに気付くとともに、選書の幅を広げてより読書に親しむことができる。	キラキラ橋商店街について探る活動を通して、未来のキラキラ橋商店街について考えるとともに、自分たちにできることを実践しようとする。	様々な職業について知ることを通して、将来の職業選択の可能性を広げる。
関連する教科等	総合的な学習の時間		

	たんぽぽ低学年	たんぽぽ高学年
地域教材	キラキラ橋商店街	向島警察署、小村井交番
主たる教科	生活単元	総合
単元名	キラキラたちばなしょうてんがいのお店に行こう	学校の周りの危険からみんなを守れ！
単元目標 （重点目標）	地域の商店街の人々と関わる活動を通して、地域で働いている人との接し、見付けたことや気付いたことを自分なりに表現する。	通学路における安全マップを作成する活動を通して、通学路の危険に気付き、下級生に伝えて自身も安全に行動できるようにする。
関連する教科等	国語科	国語科

【今回関わった地域施設・教材・人材】

曳舟図書館、向島警察署、緑と花の学習園、大黒屋（おでん屋）、ハトや（パン屋）、こんこん（たこ焼き屋）、鳥正（焼き鳥屋）、けん玉ムームカフェ（けん玉・コーヒー屋）、アート&ネパール（カレー屋）、向島橋銀座商店街協同組合事務局長大和さん、ヒルママーケットプレイス（スーパー）、SEVEN' S CAFÉ、くるみ（総菜屋）、ほっぺ（カフェ）、墨田まちづくり公社田中さん（京島文化祭りに活動のまとめを掲示）、文化児童館

1 1 今年度の研究の成果と課題（成果○ 課題◆）

（成果）

- 地域の様々な方と関わったことで、さらに地域への愛着や地域の一員であるという自覚につながった。
- 年間で同じ講師から指導を受けたことで一貫性のある研究ができた。
- 子供たちがとても意欲的にグループ同士、地域の方々と対話しながら学習に取り組む姿が見られた。
- 低学年は保護者や1年生に、高学年は保護者や6年生に制作したものを発表し異学年で交流する場面を設けたことで、主体的に活動することができた。

（課題）

- ◆地域との連携を図る際、事前準備や打ち合わせなど単学級の本校では教員の負担が大きかった。
- ◆振り返りの充実を図り、学びのサイクル（見通す→取り組む→振り返る）が定着できるとよい。
- ◆地域素材の活用となると、教科横断的な学習になりやすく単元計画の整理が必要。

今年度ご指導いただきました講師の先生

国土館大学体育学部子どもスポーツ教育学科

教授 秋田 博昭 先生

おわりに

副校長 宮川 範子

今年度は墨田区教育委員会研究協力校の1年次誌上発表でした。昨年から引き続き、「主体的・対話的に学ぶ児童の育成～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～」の研究主題のもと、2年、5年、たんぽぽ5、6年が研究授業を行いました。

2年生・・・生活科としてグループごとに地域を歩き、町の魅力を探し、見つけた場所や人を絵地図にまとめ1年生、保護者に発表。

5年生・・・商店街に入り込み、アンケートや取材を通して商店街の今の姿と未来について考え、発表会で自分たちなりの“提案書”を6年生、保護者、商店街事務局長様へのプレゼンテーション。

特別支援学級の5、6年生・・・自分たちで見つけた危険箇所を地図にまとめ、低学年に向けてクイズやロールプレイで分かりやすく発表。

学年の発達段階に応じた学習活動を通して、昨年度よりさらに「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」に迫れたのではないかと思います。次年度は研究発表会をまとめの場とし、3年間の研究を第四吾嬬小学校の教育課程としてしっかりと位置づけるよう取り組みます。

最後となりましたが、年間講師としてご指導・ご講評をいただきました国土館大学 体育学部 教授 秋田 博昭先生におかれましては、心より感謝申し上げます。